

平成29年度  
ウチナーンチュ子弟等留学生修了報告書



沖 縄 県

## はじめに

ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業は、海外に在住する沖縄県出身移住者子弟や本県と縁が深いアジア諸国等から優秀な人物を県内の大学や企業、伝統芸能修得機関等で修学・研修させ、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、企業での実務経験、県民との交流を通して、将来的に本県と出身国とのネットワークの架け橋になる人材を育成し、もって、双方の国際交流に寄与せしめることを目的としています。

昭和44年度（1969年）にボリビアからの留学生1名の受け入れから始まった本事業は、これまでに643名の留学生を受け入れてまいりました。

留学生は沖縄の歴史や文化の理解者として、帰国後、それぞれの地で本県との架け橋となり活躍しています。

平成29年度は、ブラジル2名、ペルー2名、アルゼンチン2名、ボリビア3名、アメリカ1名、カナダ1名、中国（福建省）1名、台湾2名の合計14名を受入れました。

この報告書は、留学生が沖縄滞在中に感じた日本・沖縄に対する率直な意見や感想、大学や研修先での修業成果等をまとめたものです。様々な経験を経て成長していく姿を見ていただき、本事業理解の一助となれば幸いです。

また、第6回世界のウチナーンチュ大会において、10月30日が「世界のウチナーンチュの日」として制定されました。留学生には「世界のウチナーンチュの日」の関連イベントや、その他人材育成を目的とした国際交流事業にも積極的に参加し、沖縄と世界を繋ぐネットワーク構築に貢献していただきました。帰国後も、更なるネットワークの継承と発展に繋がる活動を継続し、留学生がこのネットワークの中心として一層活躍していくことを期待しております。

最後に、本事業実施にあたり、留学生を受け入れていただきました琉球大学、沖縄国際大学、名桜大学、沖縄県立芸術大学、株式会社東洋企画印刷、特定非営利活動法人亜熱帯バイオマス利用研究センター、沖縄県三線製作事業協同組合、新崎太鼓三味線店、並びに関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成30年3月

沖縄県文化観光スポーツ部長

嘉手苺 孝夫

## 目 次

### ○ウチナーンチュ子弟等留学生（14名）

- ちんすこう  
波田野 金城 ヤーラ 梨枝（ブラジル）……………11
- 私の一年間で住んでいる経験  
小波津 喜屋武 ウェンディ 清美（ペルー）……………17
- 沖縄で体験したこと  
伊佐 ペラエス グレイス（ペルー）……………20
- 自分を見つけたきっかけ  
眞榮城 茜（ポリビア）……………25
- ウチナーンチュ子弟の一員として  
楊 茜茹（台湾）……………29
- チャンプルーでよかった  
翁長 ありさ（ポリビア）……………32
- 私の沖縄の経験  
呉屋 カサリン ドーラ（アメリカ）……………36
- 遠く離れた親しい島  
天願 マリア バレリア 小百合（アルゼンチン）……………39
- 沖縄との出会い 人生のいい記憶に  
張 韜宇（中国）……………41
- 祖国の経験  
比嘉 ショーン ロベルト タダシ（カナダ）……………50
- 初体験の一年  
大田 怜里（ポリビア）……………53
- もっとウチナーを  
朱 宥任（台湾）……………57
- 島に戻て  
志良堂 ミシェル サリタ サユリ（ブラジル）……………64
- 太鼓バカの大冒険  
前外間 レオネル（アルゼンチン）……………70



平成 29 年度 ウチナンチュ子弟等留学生 修了式 平成 30 年 3 月 16 日 於：市町村自治会館

## ウチナンチュ子弟等留学生受入事業概要

### 【目的】

この事業は、沖縄県出身移住者子弟及びアジア諸国等から優秀な人物を選抜し、県内の大学や企業、伝統芸能修得機関で就学・研修させ、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、県内企業での実務経験、県民との交流を深め、将来的に本県と出身国とのネットワークの架け橋になる人材を育成し、もって、本県との国際交流に寄与せしめることを目的とする。

### 【事業のあゆみ】

1900年、本県から世界各国への海外移住が始まって以降、その移住者たちは各国で県人会などの独自のコミュニティを作り活動している。そういった海外移住者の子弟を対象とし、沖縄県が昭和44年に海外留学生受入事業を開始、ポリビアからの県系人子弟留学生を受入れて以来、「アジア諸国等留学生」等を含め、これまでに15カ国1地域からのべ643人を受け入れている。

### 【事業内容】

本事業では、留学生は「科目等履修生コース」または「伝統芸能修得コース」にて就学・研修を行う。

#### ① 科目等履修生コース

A: 日本語＋科目選択 (1年)	県内の各大学で科目等履修生として就学します。
B: 日本語＋科目選択＋企業等研修 (6ヶ月) (6ヶ月)	科目履修修了後、実際に県内の企業に入って研修します。

#### ② 伝統芸能修得コース

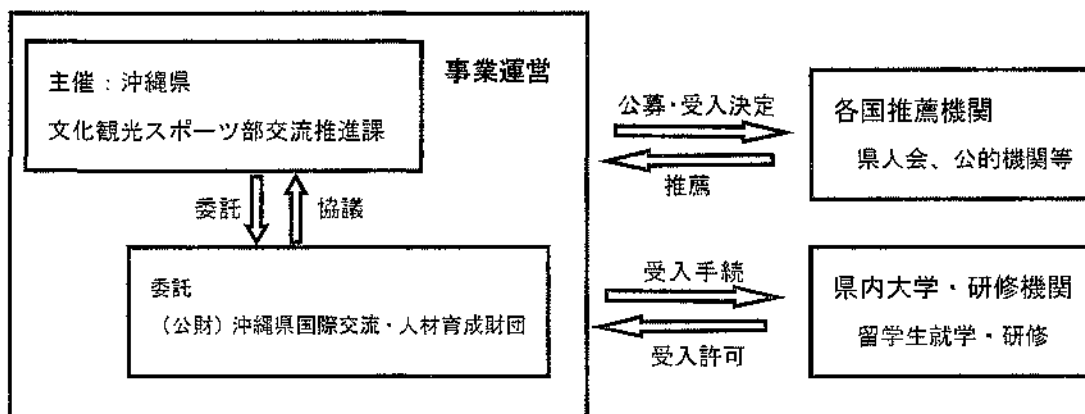
日本語学校＋伝統芸能・工芸研修 (3ヶ月) (9ヶ月)	県内の日本語学校で3ヶ月学んだ後、伝統芸能を教えている各学校・教室・施設で9ヶ月間技術研修を実施します。 ※日本語学校は研修生の語学力により判断します。
紅型、三線製作、琉球料理(沖縄料理)、太鼓製作等	

## 【運営体制】

沖縄県からの委託をうけて、(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団(以下「財団」。)が沖縄県と連携しながら当事業を実施した。

留学生の選考・決定については、財団が各国の推薦機関へ留学生を公募し、推薦のあった候補者から県と協議のうえ決定した。

受入が決定した後、各々の大学や研修機関へ出願、受入許可を得て就学・研修を行った。



## 【本年度の主な取り組み】

4月初旬	ウチナーンチュ子弟等留学生来沖、 修学/研修、沖縄での生活の準備	
4月14日	沖縄県副知事表敬及びオリエンテーション 研修① 沖縄県の施策説明	沖縄県庁
4月15日	研修② 留学の目標設定	財団
6月19日～22日	ネットワークパネル展示	沖縄県庁
6月23日	研修③ 平和学習研修	平和祈念公園
8月12日	研修④ 歴史学習研修	県立博物館
8月28日～30日	研修⑤ 伊江島民泊研修	伊江島
11月23日	研修⑥ 文化体験研修	那覇市内各所
12月27日	研修⑦ 京都事前研修	財団
2月14日～16日	研修⑧ 京都研修	京都市内各所
2月24日	研修⑨ 留学の振り返り	財団
3月2日	研修⑩ 留学・研修報告会	沖縄国際センター
3月16日	ウチナーンチュ子弟等留学生 修了式・懇親会	市町村自治会館
3月中旬～下旬	留学生 帰国	

※この他、県内外で実施された交流・協力イベントに参加。

## 【プログラムの概要】

### ◆ 副知事表敬

【日程】平成29年4月14日 【場所】沖縄県庁

【目的】副知事を表敬し、1年間の留学生活における抱負を述べる。

【内容】富川副知事を表敬訪問し、各々の1年間の抱負を述べた。

副知事からは、1年間の留学・研修において、文化を勉強しながら、沖縄の言葉も大事にして欲しいと激励の言葉をいただいた。



### ◆ ネットワークパネル展

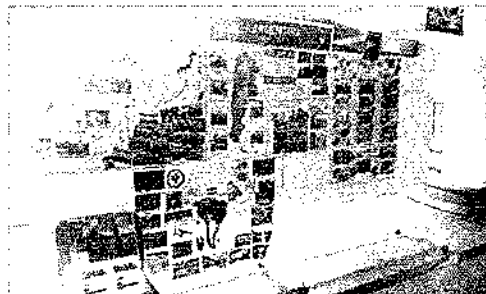
【日程】平成29年6月19～22日

【場所】沖縄県庁 1階エントランス

【目的】出身国・地域について広く県民に伝える。

【内容】6月18日の「海外移住の日」に合わせて毎年行われる「移民パネル展」のため、留学生が各々の国のパネルを作成した。

出身国ごとに工夫を凝らして作ったパネルは、4日間にわたり県庁に展示し、来庁者に海外移住者のこと、それぞれの出身国のことを紹介した。



### ◆ 通年研修(全10回)

#### (1) 沖縄県の施策説明・オリエンテーション

【日程】平成29年4月14日 【場所】沖縄県庁

【目的】沖縄県の実施する国際交流事業や留学生に期待されていることを知る。

【内容】沖縄県が実施する国際交流事業や、ウチナンチュ子弟等留学生に求められていることなどの説明をうけ、自分が沖縄にいることの意味、なすべきことを改めて認識した。

あわせて、大学・研修機関についてのオリエンテーションを行い、それぞれの留学生活における注意点などを確認した。



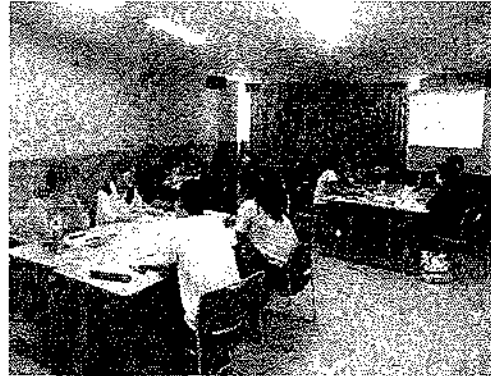
## (2) 留学の目標設定

【日程】平成29年4月15日

【場所】沖縄県国際交流・人材育成財団

【目的】県が留学生に期待することを踏まえ、留学期間中の目標を定める。

【内容】県の施策説明での話を踏まえ、「沖縄で自分がやるべきこと、やりたいこと」を確認し、意見交換をした。しっかりとした目標をもって留学・研修に臨む必要があることに気付く機会となった。



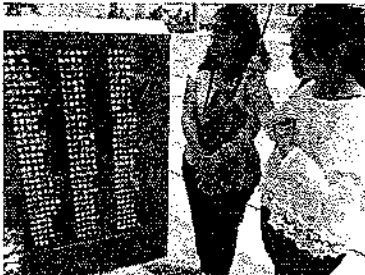
## (3) 平和学習研修

【日程】平成29年6月23日(慰霊の日)

【場所】沖縄県平和祈念公園・資料館

【目的】沖縄の歴史を学ぶうえで重要な沖縄戦についての知識と、県民の平和への意識についての理解を深める。

【内容】平和祈念資料館を見学し、沖縄全戦没者追悼式典に参列することで、沖縄戦の知識や県民の平和への意識について学んだ。その後、それぞれが得た知識や感じたことを他の留学生と共有し、「学んだことを帰国後どう伝えていくか」をテーマにワークショップを行った。



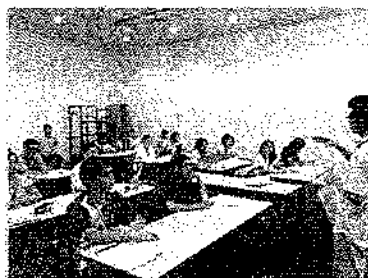
## (4) 歴史学習研修

【日程】平成29年8月12日

【場所】沖縄県立博物館・美術館

【目的】沖縄県の歴史の概略を通し、現代の沖縄がどのように形作られたかを知ることで、本県の歴史・文化に理解を深める。

【内容】県立博物館を観覧し、琉球王国の成立から現代沖縄までの歴史の流れや、移民の歴史についてガイドから説明を受けた。その後、講師(仲村顕氏)による講座では、沖縄から海外へ移住した「出移民」だけではなく、アジア諸国からの「入移民」についての説明もあり、留学生それぞれの背景に関する沖縄の歴史について学んだ。





(5) 伊江島民泊研修

【日程】平成29年8月28日～30日

【場所】伊江島(伊江村)

【目的】沖縄県民の生活を体験し、県民との交流を図り、沖縄の自然・文化に触れることで、帰国後、出身国と本県との架け橋となる人材としての素養を養う。

【内容】伊江島観光協会が実施する民泊事業を利用し、2泊3日の行程で民泊体験を行った。研修中は、島内にある戦跡や城山、伊江ビーチなどを民家の方に案内していただき、また観光のみならずサーターアンダギー作りや、畑の清掃の手伝いなど、県民の生活や文化を体験した。

伊江島の皆さんには家族のように温かく迎えていただき、最終日は留学生と「いってらっしゃい」「行ってきます」と言葉を交わし、フェリーから姿が見えなくなるまで手を振って別れを惜しんだ。



(6) 文化体験研修

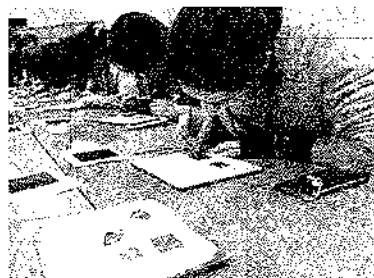
【日程】平成29年11月23日

【場所】那覇市内各所

【目的】本県の地域住民の生活や伝統的な文化について知り、体験することで理解を深める。

【内容】那覇市観光協会が実施する「那覇まちま〜い」を利用して、那覇市街をガイドとともに散策市、地域住民の生活や歴史について説明を受けた。日常生活で時折訪れる場所ではあるが、それだけでは気付くことができない歴史的背景や小道(スージグァー)を知り、改めて地域住民の生活に思いを巡らせた。

その後、那覇市伝統工芸館にて琉球漆器製作の加飾「堆錦」を体験し、工芸品に対する職人の情熱や思いに触れることができた。



## (7) 京都研修

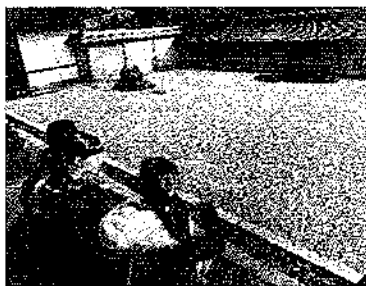
【日程】平成30年2月14日～16日

【場所】京都市内

【目的】沖縄県のみならず、日本の伝統的な歴史に触れ、これまでの研修で学んだ本県独自の文化と日本本土の伝統文化を比較することにより、双方の歴史・文化についてより深く理解・考察する。

【内容】京都研修を実施するにあたり、「京都とはどのようなところか」について基礎知識を学ぶ事前研修を行った。京都では、事前研修で学んだことを参考にしながら、二条城、龍安寺、京都御所をガイドとともに観覧し、その後グループに分かれ、各々が興味のある史跡や施設を観覧した。

いずれの場所においても、多言語による案内やガイドが充実しており、施設を観覧後ガイドに質問をするなど、ただ観光するだけでは知り得ない知識や発見、気づきを得ることができた。



## (8) 留学の振り返り

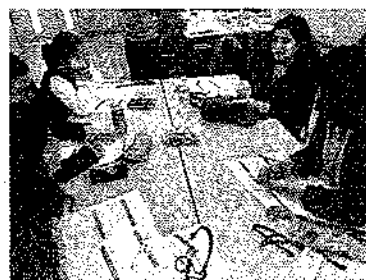
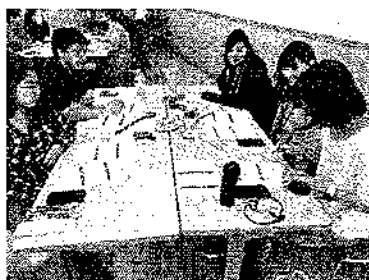
【日程】平成30年2月24日

【場所】沖縄県国際交流・人材育成財団

【目的】1年間の留学・研修で得たものを確認・共有するとともに、帰国後それらをどのように活かすことができるかを考える。また、帰国後の活動について意見交換を行う。

【内容】来沖時に設定した目標を思い出し、当時の自分の考えや自身の沖縄での活動の振り返りを行った。その後、設定した目標が達成できているか、またそれ以外にどのような経験があったかなど、留学・研修における成果と自身の変化について情報共有を行った。

日本語能力の向上はもちろん、様々な舞台での経験や研修中に知った新たな経験や発見を出身国・地域に持ち帰り普及させたいなどの意見があった。



(9) 留学・研修報告会

【日程】平成30年3月2日

【場所】JICA 沖縄国際センター

【目的】県民に向けて1年間の留学・研修の成果を発表し抱負を語ることで、来場者へ国際交流や異文化について理解を深めていただく機会とする。また、自身の考えや経験を他者に伝えることを通して、帰国後のウチナーネットワークの担い手としての自覚を持つ。

【内容】1年間の留学・研修での経験やそれによって得た技能・知識などを発表した。

大学・研修機関での生活や学んだ事はもちろん、それ以外での活動や発見、身につけた技能を各々の方法で来場者に報告した。

日本語の能力向上はもちろん、沖縄での生活で得た経験、琉球舞踊などの技能、留学・研修に対する思い、そして感謝と今後の活動の展望などを発表した。

来場者からは、留学生の頑張りや経験を知ることができ大変よかった。彼らにはこれからも頑張ってもらいたいなどのコメントがあった。



◆ 平成29年度ウチナーンチュ子弟等留学生修了式・懇親会

【日程】平成30年3月16日

【場所】沖縄県市町村自治会館

【内容】修了式では、沖縄県副知事富川盛武から修了証書を受け取り、翁長知事からの式辞をいただいた。留学生代表挨拶では波田野金城ヤーラ梨枝が「出身国と沖縄のただの架け橋にはならない、頑丈な架け橋になる」と帰国後の抱負を語った。その後の懇親会では、留学・研修でお世話になった受入機関、親族、友人へ一人一人感謝の言葉を述べた。

<修了式>

- |                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| 1 開式            | 5 来賓祝辞               |
| 2 留学生の紹介 留学生14名 | 琉球大学 学長 大城 肇         |
| 3 修了証書授与        | (代読 国際教育センター長 新垣 雄光) |
| 沖縄県副知事 富川 盛武    |                      |
| 4 式辞            | 6 留学生代表挨拶            |
| 沖縄県 知事 翁長 雄志    | 波田野 金城 ヤーラ 梨枝        |
| (代読 副知事 富川 盛武)  | 7 閉式                 |
|                 | 8 記念撮影               |



<懇親会>

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 1 開会              | 5 懇親           |
| 2 開会の挨拶           | 6 留学生による余興     |
| 沖縄県国際交流・人材育成財団    | 1. かぎやで風       |
| 理事長 玉城 哲也         | 2. 歌三線(海の声)    |
| 3 来賓祝辞            | 3. 手踊り(いちやりば結) |
| 沖縄県立芸術大学 学長 比嘉 康春 | 7 フィナーレ        |
| 4 乾杯の音頭           | 8 閉会           |
| 沖縄県文化観光スポーツ部      |                |
| 部長 嘉手苺 孝夫         |                |



平成29年度ウチナーンチュ子弟等留学生 名簿



波田野 金城 ヤーラ 梨枝

出身国/地域：ブラジル連邦共和国

沖縄県立芸術大学 音楽学部 科目等履修生



小波津 喜屋武 ウェンディ 清美

出身国/地域：ペルー共和国

沖縄県立芸術大学 音楽学部 科目等履修生



伊佐 ペラエス グレイス

出身国/地域：ペルー共和国

沖縄国際大学 科目等履修生



眞榮城 茜

出身国/地域：ボリビア多民族国

沖縄国際大学 科目等履修生



揚 茜茹

出身国/地域：台湾

名桜大学 科目等履修生



翁長 ありさ

出身国/地域：ボリビア多民族国

琉球大学 共通教育科目 科目等履修生



呉屋 カサリン ドーラ

出身国/地域：アメリカ合衆国

琉球大学 共通教育科目 科目等履修生

天願 マリア バレリア 小百合

出身国/地域：アルゼンチン共和国

琉球大学 共通教育科目・法文学部 科目等履修生



張 韜宇

出身国/地域：中華人民共和国

琉球大学 共通教育科目・法文学部 科目等履修生



比嘉 ショーン ロバート タダシ

出身国/地域：カナダ

琉球大学 共通教育科目 科目等履修生



大田 怜里

出身国/地域：ボリビア多民族国

琉球大学 科目等履修生

/特定非営利活動法人亜熱帯バイオマス利用研究センター



朱 宥任

出身国/地域：台湾

琉球大学 科目等履修生

/株式会社東洋企画印刷



志良堂 ミシェールス サリタ サユリ

出身国/地域：ブラジル連邦共和国

伝統芸能習得コース 三線製作

沖縄県三線製作事業協同組合



前外間 レオネル

出身国/地域：アルゼンチン共和国

伝統芸能習得コース 太鼓製作

新崎太鼓三味線店



## ちんすこう

波田野 金城 ヤーラ 梨枝 (ブラジル)

沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻

### ブラジルから沖縄へ

三重県生まれの県系3世、国籍はブラジル人です。父はアルゼンチン人で、母は日系ブラジル人。父方の祖父母が沖縄県大宜味村出身です。8年前に両親、妹と弟とブラジルへ戻り、今はサンパウロに住んでいます。琉球舞踊は、サンパウロ市内にある玉城流玉扇会城間和枝琉舞道場でお稽古をしています。3年半前に門下生となりました。

沖縄に来るのは今回で3回目になりました。一年間の滞在という長期間は初めてで、昨年4月、沖縄に到着したときは少し不安でした。同時に、沖縄での生活がとても楽しみでもありました。また、同じアパートに一週間遅れてペルーから芸大の留学生がもう一人来ると知ると、嬉しくて待ちきれなかったです。

そんな思いで沖縄での留学はスタートしました。

### 沖縄県立芸術大学

琉球舞踊を学ぶため、芸大に入った私は、他にもおもしろそうな授業がたくさんあることを知りました。そして、先生方と座って、前期の授業選びをしました。沖縄まで来たのだからたくさん勉強しよう、という気持ちだけで先のことは考えず授業登録をしてしまった結果、前期の試験期間、大変なことになりました。県費留学生は科目等履修生として扱われます。なので、私たちは一年生から四年生までの授業を選択することもできます。しかし、レベルや舞踊歴の差があるので、基本、芸大に入ったら一年生のメンバーといっしょに過ごす時間が長いです。舞踊も組踊も、一年生たちとともに学びました。まだ大学に入ったばかり同士なので、仲良くなるのも早かったです。

琉球舞踊実技前期は比嘉いずみ先生が指導。礼、正座、歩みから始まり、姿勢を直されました。丹田を使うことや呼吸の大切さを学びました。また、前期の課題曲が「かぎやで風」なので、お扇子の扱い方を教わりました。そして、お扇子には天と地、親骨、七三骨、地紙、元、要…と、パーツごとに名前があることを知りました。「お扇子は家族と同様。親骨と親骨の間に七三骨があるけど、これは親



に守られている子供。一つの家族。そして、その家族を支えているのが要。では、要は何か。それは家族を結んでいる絆である。」と聞いてから、身近な小道具けどとても深い意味があるのだなとわかりました。

後期は高嶺久枝先生が指導。最初は浜千鳥を習いました。歌詞をよく聞いて、音より先に踊らない。曲取りをよく注意されました。また、ご指導の際には、「どんなに悲しくても踊っているときは、涙をみせない。」とっていました。

1月の学年演奏会では、前之浜を踊りました。1年生は計6人もいるので、息を合わせるのがとても難しかったです。

どんな曲でも練習する前に歌詞の確認から始めました。なので、歌詞と意味を知っていないといけなかったです。

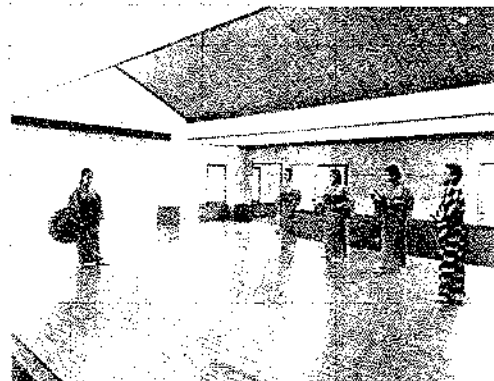
芸大にいた間は、オープンキャンパス、芸大祭、定期公演、移動大学、学年演奏会、新春の宴などの舞台に立つことができました。

そこでは、かぎやで風、こてい節、秋の踊り、前之浜、黒島口説、創作舞踊を踊りました。舞台に出ることになると、みんないつも以上に練習をしました。また、着付けや化粧、髪結いを実践的に行うので、決められた時間内にどれだけ一人でできるか、時間との勝負でした。



組踊の授業もありました。指導は阿嘉修先生。ブラジルでは組踊ができる人がいません。なので、いつもユーチューブで動画を見たり、組踊のサイトに入って組踊の世界を見ていました。

そういうこともあって、実際に組踊の先生から学ぶのがとても楽しみでした。授業のはじめ、役柄や身分によって唱えが変わることやその特徴を教わりました。1年生は、「執心鐘入」を前期と後期に分





けて学びました。唱えを覚えて、所作も覚えなれないので、正直難しかったです。でも、なんとか覚えめました。前期では、二人ペアを組んで若松役と宿の女役を決めて作品の半分までやって、後期ではみんなで前期の半分から最後まで通しました。組踊の授業、もっと受けたかったです。

他にも、民俗学、琉球語基礎、琉球芸能論、国語表現、詞章研究、琉球舞踊基礎演習、扮装実習、歌三線、空手、太鼓、笛、胡弓を習いました。



### 道場に通い始めて

芸大へ通うとともに、所属している玉城流玉扇会の道場にも行きました。毎週月曜日と金曜日の夜8時からお稽古。初めてのお稽古の日、先輩の美幸がいっしょに連れて行ってくれたので安心しました。そこには先輩たちや先生方、そして、家元がいて快く受け入れてくれました。お稽古では、かせかけと上り口説を集中的にお稽古し、夏休みにはお昼のお稽古時間にも数回行かせていただきました。

道場でお稽古をしていると、同じ曲でも、自分の踊り方が少し違うことがありました。例えば、「貫花」。ブラジルでよく踊ったので自信があったのに、いざみんなで踊ってみると、歌取りが少しちがったり、途中でやったことのない所作があったりしました。驚きを隠せなかった私。正直、同じ会なのになぜ違うのか疑問でした。そして、三代目や先生方と話していると、少しずつ時代とともに手が変わってきたことがわかりました。要するに、今のブラジルの支部で踊っている手は、昔のままなのです。そんなことがあるんだなと思いました。





7月には、舞踊劇「浦島」に魚役として出演させていただく機会がありました。初舞台で、お稽古でも本番でも緊張しました。この舞台のために毎週週末は夜遅くまでお稽古をしました。大勢で踊るのでいつも全体のことを考えながら踊らないといけなかったです。初めての創作舞台で、いつも踊っている舞踊とは違う所作がたくさんあり、慣れていない私にアドバイスをくれる先生方や先輩たちがいました。踊っていると、自分では気づかないことがたくさんあり、そんな時の先輩たちや先生方のアドバイスがとても勉強になりました。

お稽古中やゲネプロでミスをしてしまうことがよくありました。しかし、そのおかげで気づくことも多かったです。一か月以上のお稽古をして、自分にまだ足りないものや学ぶべきこと、舞台裏での準備、助け合い、役になりきって踊ること、いろいろな面で考えさせられることがありました。なので、この機会をいただけたことに感謝します。



### 親戚たちとの時間

この一年間、芸大や道場やウチナンチュ子弟等留学生の研修で忙しいにも関わらず、いつもそばには親戚たちの存在がありました。なので、ブラジルにいる家族と離れていても寂しくなかったです。

二十歳が終わる二日前に、司おじさんとさちえさんが貴重な振袖を貸してくれて、成人式の記念写真を撮ったり、大宜見のヤス子おばさんのカジマヤーで美代子おばさんと赤嶺さんと余興をしたり、奈美子おばさんの誕生日をいっしょに祝ったり、移動大学で大宜見にいったときにも見に来てくれたり、夕食会したり…。いい思い出がたくさん作れました。





司おじさんとウチナー芝居もよく見に行きました。ウチナー口が聞ける環境があまりなかった私にとっては、最高の勉強の場でもありました。司おじさん、ありがとうございます。

来週は北部へ行って、梨枝子おばさんや利子おばさんたちと、やんばるメンバーでランチします。楽しみです！

### 最後に…

この一年間を振り返ってみると、琉球芸能のことを多く学びました。しかし、それは一部であり、まだまだこれからなのだ実感もしました。

2月に、2泊3日間の県外研修があり、京都へ行きました。沖縄を出て、他の場所を見ることで勉強になることがありました。やはり沖縄と本土の習慣や言葉、伝統は違いすぎます。でも、それぞれに歴史があり、よし悪しがあるからこそ、魅力を感じさせる部分があり、比較するものではないのだと思いました。それは、沖縄の舞踊の世界とブラジルの舞踊の世界にも当てはまります。



報告会では一年間学んだ成果を凝縮して、ウェンディと発表をしました。京都の県外研修から戻り取り掛かったので、十分に練習する時間がなく、二人でできるところまで頑張りました。しかし、発表当日、唱えを間違えました。それでも、高評価。成果発表会を終えて、見に来てくれたある友達の感想を聞いて、気付かされました。上手い下手より、芸能を通して、何を伝えたいのか、「思い」を

もってやるのがどれだけ大事かということ。それが、みんなを感動させるのだと。うまく伝えられないですが、今まででなかったような体験でした。

それと、この報告会で発表するにあたって、同じ芸大の一年生の朝子さんが「舞台裏」の手伝いをしてくれました。彼女は小さいですが、存在はとても大きかったです。沖縄へ留学して本当に心強い友達ができました。

京都研修のとき、沖縄を少し離れただけなのに、沖縄に着いた瞬間、「家」に戻ったような感じがしました。家はブラジルにあるのに、不思議です。今度は、そのブラジルの家に帰ります。どちらも私の家と「家」なので、嬉しいと同時に寂しいです。また、変な感じです。

沖縄で充実した留学生活を送られたのも、知人や友達、先生方、親戚のみなさん、担当者の金城さんと石橋さんの支えがあったからです。「知人や友達、…」と一括りにしていますが、書いてみると、みなさん一人ひとりの名前が思い浮かんできます。

一年間、ありがとうございました！

またんうみかきやびら♪



## 私の一年間で住んでいる経験

小波津 喜屋武 ウェンディ 清美（ペルー）  
沖縄県立芸術大学 音楽学部

曾祖父と曾祖母は沖縄の西原町に生まれました。私は赤ちゃんのときから祖父と祖母と住んでいました。いつもかれらは沖縄の文化を伝えてくれました。だから、子供のとき沖縄について興味がありました。

それに、ペルーの沖縄県人会でいろいろなアクティビティに参加して、婦人会の人を手伝って、パフォーマンスをして、踊りを踊って、三線をひきました。

大学が終わってから、留学生として沖縄に行くつもりでした。最初は琉球舞踊を教えている大学を知らなくて、沖縄県人会のコーディネーターのカリナさんが説明してくれました。芸大のコースを聞いて、決めて、県立芸術大学に行きたいと思いました。去年の4月から今年の2月まで芸大で音楽学部音楽学科琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コースを受けました。

琉球舞踊を踊るために、琉球舞踊実技と扮装実習を受けて、練習して、習いました。だから、今は男踊りと女古典のからじときつけと化粧をすることができます。それで、組踊実技を初めて見て、練習しました。一年生たちは「執心鐘入」を練習しました。とてもおもしろいと思っています。琉球舞踊の曲はときどき難しいですから、舞踊をよく踊れるように、三線と琴の授業も受けました。芸大で日本語の授業もありましたから、全部受けました。



最初の琉球舞踊実技の授業で先生は一年生に流派について聞きました。そのとき、私は流派がありませんでした。なぜならペルーにはあまり流派がないからです。先生と話して、先生のお稽古場に行ってみて、お稽古を見て、決めました。5月から親泊流輝てい会で踊りを練習していました。先生はやさしく教えてくれました。

芸大には色々な公演があります。公演の前に、芸大の人たちとお稽古しなければなりません。夏休みもお稽古をしました。8月は嘉手納町で踊りました。一年生とせんぱいと「かぎやで風」を踊って、芸大の皆たち「黒島口説」の踊りを踊りました。そして、芸大のOPEN CAMPUSでも踊りました。9月は首里城の中秋の宴でせんぱいと「かぎやで風」を踊りました。10月は沖縄市での定期公演で「秋の踊り」と「あっちゃめー」を踊りました。そして、11月芸大祭で「わかしゅうくていぶし」と「黒島口説」と「たんちゃめー」を踊りました。西原町の沖縄地域留学生交流推進協議会で「かぎやで風」を踊りました。それで、移動大学るとき「かぎやで風」と「黒島口説」を踊りました。芸大の人たちとの最後の公演は芸大の学年演奏会で「前之浜」を踊りました。公演は全部でいい経験があって、琉芸の世界を習いました。



一年生たちと琉球舞踊組踊コースを勉強しました。皆さんはとてもやさしくて、楽しくて、なかよくなりました。私が準備で困ったとき、いつも手伝ってくれました。感謝しています。

親泊流輝てい会のメンバーたちと踊りました。12月23日は浦添市城間公民館で親泊流輝てい会のおさらい会でした。「上り口説」の踊りは最初のコンクールの踊りですから、むずかしいです。おさらい会のために5月から12月まで上り口説を練習していました。私は輝てい会のメンバー宮本さんと踊りました。とてもおもしろかったです。パフォーマンスが終わった後、輝てい会のメンバーたちとカラオケで忘年会をやりました。



舞踊のコンクールも見ました。親泊流輝てい会のメンバーはコンクールを受けました。私はコンクールの日は手伝いました。ペルーでは舞踊のコンクールがありませんから、初めて見ました。コンクールの日に色々な流派を見て、手伝うとき、からじと舞踊のけしょうと着付けを見て、習いました。

芸大と親泊流輝てい会のお稽古とは別に県費留学生たちと学習研修をしました。そして、伊江島と京都へ行って、沖縄と日本の文化を習って、ゆうめいな所でツアーをしました。とても良かったです。移民の日に県費の人たちとパフォーマンスをしました。その日の前に、皆さんで集まって、練習して、食べに行って、なかよくなりました。



沖縄に来る前に沖縄の親戚は知らなかったです。写真がなくて、電話も知らなくて、とてもさびしかったです。しかし、Facebook で宇小波津のグループの中に私は親戚にメールを送って、関係を確立することができました。今は親戚と良く話して、喜びです。



一年間で沖縄県庁の皆さん、財団の皆さん、県費留学生の皆さん、小波津の親戚たち、沖縄県立芸術大学の音楽学部音楽学科琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コースの先生たちと一年生の皆さん、親泊流輝てい会のメンバーと先輩の皆さんとても感謝しています。この一年間の思い出を守ります。

## 沖縄で体験したこと

伊佐 ペラエス グレイス（ペルー）

沖縄国際大学

この一年間は人生の中でとても大切な年になりました。私は色々なことを初めて経験をして、友達を作って、学んで、観光をしました。

### 研修

一年中色々な研修や活動をしました。中でもある二つの研修が私に大きな影響を与えました。一つは平和研修でした。慰霊の日、平和祈念公園と資料館へ行きました。そこで沖縄戦のことを細かく学びました。戦争のビデオを見て生存者の証言を聞いて大変悲しい雰囲気が流れていました。けれど最後に記憶に残ったことは戦争の話ではなく、平和の話で



した。同じ過ちを繰り返さないために過去のことをもっと勉強しようと思いました。

二つ目は伊江島民泊研修でした。ホストは私達を暖かく迎えてくれました。沖縄らしさを感じました。ホスト先の家族を紹介してくれて、寝泊まりして、島の観光地を紹介してくれて、さらに友達を紹介してくれました。一人の友達は若い時にペルーに住んでいたことがありました。そして、ボリビアに親戚が住んでいるおばさんに会いました。さらにボリビアからの県費留学生達を知っていました。世界はせまいなと感じました。どこへ行っても親戚、ご近所さん、友達などに会えることを知りました。これらの研修以外にも沖縄の文化や歴史を学ぶことができ、感謝しています。





## 大学の授業とグローバルセンターの活動

沖縄国際大学でこの一年間、科目等履修生として日本語を勉強し、それ以外にもシーサーを作って、劇を披露して、歌を歌って、俳句を詠んで、発表などをして、勉強しながら楽しかったです。

一番たいへんで、でも達成感があった活動は日本語スピーチコンテストでした。私は『教室外の勉強』をテーマにスピーチをしました。タイトルにも書いてあるように教室外の勉強で、親戚や、サークルのみんな、クラスメイトと話し、勉強になった事がたくさんありました。そのみんなや、スピーチのチェックなどをしてくれた先生達のおかげで、中級の部3位を取ることができました。このスピーチコンテストの結果を見て、私の日本語能力が上がってきているのを感じました。

学んだ日本語に自信を持てるようになりました。先生たちに感謝しています。この一年間、大変お世話になりました。授業中、色々な活動にも手伝ってくれて、ありがとうございました。

グローバルセンターの方々と色々な活動、バスツアー、交流会などに行って留学生だけではなく、日本人生徒とも交流できました。一番好きだった活動は東村立東小中学校に行った時でした。

この活動で子供達に自分の国を紹介しました、ちょっとスペイン語の言葉も教えました。子供たちから沖縄について紹介をしてもらいました。日本語や英語で発表しました。その後フルーツバスケット、カルタなどで遊んで一緒にお昼ご飯を食べて交流できました。

今回は初めて「日本の学校のお昼ご飯」を食べました。生徒達、先生も机を並べて、ご飯をよそい、皆一緒



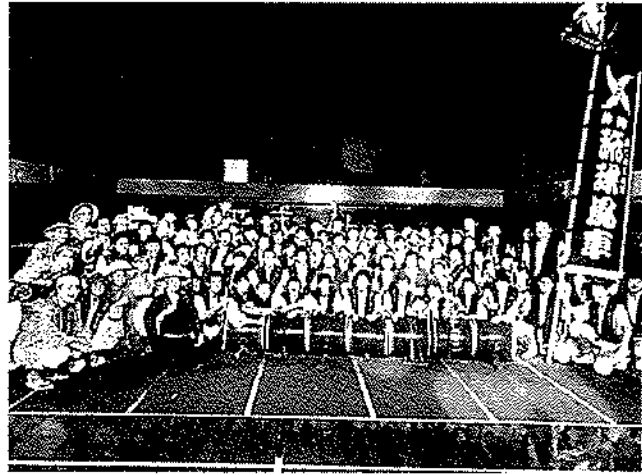
にしゃべりながら食べました。この日生徒達は本当にがんばったのでとても楽しかったです。グローバルセンターの方々、井口先生、皆とてもありがたいです。全部の参加した活動は勉強になってたのしかったです。

### エイサーサークル

課外活動としてエイサーサークルの琉球風車に入りました。夜の水・木・土曜日、沖国祭まで手踊りの練習していました。練習以外に別の活動もありました。田んぼで遊んだり、ビーチパーティーがあったり、いちからバチを作ったりしました。いくつかの祭りに出て、沖縄国際大学の祭りでも演舞しました。

このイベントは最後の一番大きな舞台でした。それで、今年卒業する先輩にとって大事なイベントでした。この日、後輩が先輩にプレゼントをあげて先輩はその日までサークルで感じたこと、学んだこと、人と出会えての感謝の言葉を言いました。私もその日、後輩からプレゼントをもらって、この一年間の色々な経験を話し、感謝しました。

私は初めて先輩と後輩の関係を感じました。ペルーではこの関係がありません。だからプレゼントをもらって優しいメッセージを読んでもらってとても感動しました。



### 親戚

この留学のおかげで沖縄に住んでいる親戚に初めて会いました。

沖縄についてすぐ、従姉妹の美笑子、育子叔母さんと甥っ子のあんじゅうが私を待っていてくれたのでとても感動しました。その時まで写真でしか見ませんでした。一日目の夜のコミュニケーションはちょっと難しかったけど、みんな優しくだったので楽しかったです。さらに、沖縄と日本のいろいろな表現やアドバイスなどを教えてくれました。

大学の前期が終わってお祝いの夕食会がありました。お盆も一緒に過ごして、祖先の写真や話を聞かせてくれました。沖国祭にも見に来てくれて、大変嬉しかったです。

新年も一緒に過ごしました。従姉妹の美幸が参加しているロックバンドのライブを見に行きました。私がリクエストした歌も歌ってくれました。とても上手に英語でリズムカルに歌いました。親戚と色々な活動や大切な日々と一緒に

過ごすことができありがたいです。親戚のおかげでも私は沖縄に来ることができ、何の問題もなく快適な生活ができました。



### ペルー協会

ペルー協会もいつも私達を支えてくれていました。

「ペルーの独立記念日」にお祝いがあって私とウェンディは「オイ」という歌を歌いました。

ウチナージュニアスタディのペルーの参加者「ありさ」は伝統踊り「フェステホ」を踊りました。たくさんペルー料理を食べて国歌を歌って皆のおかげで空気はペルーにいるかのようにになりました。

新年会もありました。今回ペルーからの研修生と過ごしました。お別れ会もありました。ウェンディと私も受け入れてくれてありがたいです。



### ウチナーネットワーク

この一年間、色んな人と出会えて、とても感謝しています。いくつかの沖縄やラテンのイベントに誘ってくれた真壁先生にも感謝しています。ミーティングや食事を一緒にした WYUA 学生部にも感謝しています。ポリビア協会とも良い思い出を作りました。私を送別会に誘っていただいて、ポリビア協会の方々と交流をして、ポリビアのオキナワ移住地のビデオを見て、もっとポリビアのことを知りたい、行きたいと思うようになりました。

最後にこの一年間に会った方々にありがたい気持ちでいっぱいです。

沖縄県の石橋さん、沖縄県国際交流・人材育成財団の金城さん、根来さんをはじめ、一日目からお世話になりました。親戚のおかげで留学することができ、私は親戚と直接会うことができ、とても嬉しいです。一緒に過ごした時間は楽しかったです。

大学で、分かりやすく笑顔で教えてくれた、先生達に感謝しています。ペルー協会がウェンディと私を受け入れてくれてありがとうございます。ウチナーネットワークに関わる友達を作り、彼らは私に色々な活動や文化イベントなどに誘ってくれて感謝しています。

距離が遠くても言語や文化が違ったとしても人はどこかしら分かち合える部分があります。私を沖縄に来させてくれて、この家族のようなネットワークを作ることができて、とても感謝しています。これから私はウチナーネットワークの絆を深めるために、沖縄の文化を広げられるように頑張りたいです。

またペルーで会いましょう！

いっぺーにふえーでーびる

## 自分を見つけたきっかけ

眞榮城 茜（ポリビア）

沖縄国際大学

私がこのウチナンチュ子弟等留学生受入事業に応募したきっかけは2013年に沖縄県が主催しているウチナージュニアスタディ事業に参加したことからです。

祖母から沖縄のことを聞いていたこともあり、幼いころから沖縄に興味があり、このウチナージュニアスタディ事業に参加することで、二週間と短い間でしたが沖縄を好きになるには十分な時間でした。ポリビアに帰国してからもずっと、もっと沖縄のことについて勉強がしたいという思いがあったので、ポリビアにあるレキオスという



沖縄の文化継承活動をしているグループに入り、ウチナンチュ子弟等留学のお話をいただき、チャンスだと思いこのウチナンチュ子弟等留学生受入事業に応募をしました。

合格通知が届いたときはとてもうれしい気持ちの反面、一年間私はちゃんとやっていけるのだろうかと不安もありました。しかし沖縄に着いてからはたくさんの親戚や友達、担当者の方々に助けていただいて、快適に沖縄での生活を満喫することができました。

### 沖縄国際大学

私は一年間日本語と沖縄の文化、歴史などを学びたいと思い、沖縄国際大学を選びました。グローバルセンターの方々はとても温かく出迎えてくれました。私は日本語の授業で、日本の文化やしきたり、宗教、論文の書き方などについて勉強しました。そのおかげもあって、沖縄国際大学日本語スピーチコンテストで上級の部で2位を取りました。そして日本語はもちろん、沖縄の歴史や文化、伝統工芸、民話、言語など沖縄についてたくさんを学ぶことができました。



やはりポリビアのオキナワ移住地に住んでいても文化の違いなどはありますし、その違いを比べられるのもとてもよかったです。沖縄国際大学にはたくさんの留学生がいて、その留学生との文化の情報交換などができ、たくさんの国の友達もできました。

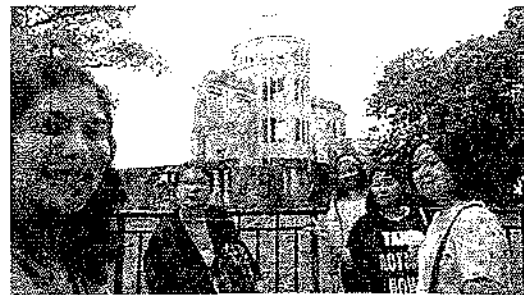


沖縄国際大学でも、宜野湾市にある文化財を見て回ったり、今帰仁城跡へ行き、桜を見て、沖縄そばを作ったり、交流パーティや小中学生に自分の国の紹介をしたりといろいろな体験をしました。

### 県外旅行

夏休みには、二週間かけて福岡県、広島県、大阪府、奈良県、京都府、東京都、神奈川県へ飛行機と夜行バスを乗り継ぎながら観光をしました。たくさん歩き、この足で日本の遺産、資料館、神社、お寺、そしてテーマパークなどへ行きました。沖縄県との文化、歴史、人、家のつくりなどの違いが見られて勉強になりました。

この旅行の中で一番印象に残っているのは、広島県の平和記念公園、資料館に訪れたときでした。第二次世界大戦で沖縄県以外に被害にあっている場所があったこと、その原爆ドームがそのままの状態です。「二度と同じような悲劇が起こらないように」と、残っていること、資料館でどのようにして原爆が落ちたのか、その被害などを見たときに悲しい気持ちでいっぱいになりました。



この県外旅行でたくさんの場所へ行き、沖縄では知ることができなかった、  
たくさんのことも学びました。

#### ウチナーンチュ子弟等留学生としての研修

ウチナーンチュ子弟等留学生の研修で、歴史学習研修、平和学習研修、伊江島民泊研修、文化研修、京都研修をしました。それぞれの研修は私にとって、とても貴重な体験でした。それ以外にも、ウチナーネットワーク大合宿、歴史学習バスツアーにも参加させていただき、これらの研修は「教えてもらう」だけではなく自分で勉強をし、理解し、相手に伝える力をつけるものでした。



そこでは沖縄の将来を担う若者たちが多く、私もそのウチナーネットワークの架け橋になれるようにと頑張りたいです。

#### 沖縄県市町村海外移住者子弟研修生との交流

沖縄県市町村海外移住者子弟研修生たちとも交流をしました。

合同合宿に通訳のスタッフとして参加し、そこでは、市町村の研修生たちが「研修が終わり帰国してから何をするか」という話になり、どんなことをして次世代につなげていくか、そして沖縄に対しての熱い思いを語ってくれました。世界ウチナーンチュ学生サミットでは名桜大学へ行き、そこでも市町村の研修生たちと自分の国の移民の歴史について発表しました。

#### 一年間の留学生活を通して、、、

一年間の留学生活はあっという間に過ぎ、ここには全てを書ききれないほど沢山のことを体験、経験をしました。

この一年間沖縄県に留学して分かったことは、沖縄県をじかに感じる事ができたこと、私たち海外に住むウチナーンチュを温かく迎えてくれる人が沖縄にいるということ、私はウチナーンチュでもあり、ボリビア人でもあることに誇りを持てるようになったこと、世界地図で沖縄県を見るととても小さいけれど私の中で沖縄県はとても大きい存在であること、そんな沖縄で最高の仲間に出会うことができたこと、このような機会をくださった沖縄県や沖縄県国際交流・人材育成財団にはとても感謝しています。

これから、、、

研修を終え、ポリビアに帰国してからは私がこの一年間の留学生活で感じたこと、学んだことや沖縄の素晴らしさを伝えるために、今まで以上に次世代への文化継承活動に力を入れていきたいです。





## ウチナーンチュ子弟の一員として

楊 茜茹（台湾）  
名桜大学

ウチナーンチュ子弟等留学生として、一年間沖縄での生活はどうでしたかと聞かれたら、素晴らしすぎて言葉にもならないほど充実していましたと答えるしかないと思います。

台湾で大学を卒業して社会人になるにはまだ未熟な自分は不安しか抱えていませんでしたが、このプログラムが救世主みたいに私のことを不安の中から救い出してくれました。せっかく日本語を専攻していた自分には何かの目標を持たなければならないと思っていて、そのときにこのプログラムに申し込んで選ばれた事に心から感謝しています。

最初、ウチナーンチュの意味さえわからないのに、いまはウチナーンチュ子弟の一員として沖縄にいることに誇りを持って、これからもこの一年間で勉強したことや体験したことや思い出などを、台湾だけでなく世界へ発信していきたいと思っています。

まず、2017年に沖縄本島へ来て、財団の定例会で自分の目標を決めるときに日本語をさらにうまくなりたいと思って、そして台湾と沖縄の架け橋になりたいと思っていました。それから名桜の授業で沖縄の自然や文化やウチナーグチなどを学んでいて、授業だけで足りないと思って、学校以外のイベントにも参加させていただきました。例えば、今帰仁の豊年祭と世界のウチナーンチュの日…などに参加して、もっと県民との交流ができたうえ、自分もウチナーンチュに一步近くなったと感じています。

また、この一年間で沖縄についての理解が深まり、日本語でのコミュニケーションももう一段階に上がりました。しかし、一年間でできることを全部やり尽くしたのでしょうか、母国に帰って本当にいいのでしょうかと疑問がまた頭に浮かんできました。

しかし、母国に帰らないとこの一年間の素晴らしさを伝えられないと思ってしまいます。この問題について、解決策を考えてみました。そして、沖縄で就職することが一番いい選択肢ではないかと思いました。自分が沖縄で就職できたら、沖縄についてもっと知ることができ、海外から沖縄へ来た観光客にも自分の経験や沖縄に関することを伝えることができるのではないのでしょうか？

そう考えてみると、やはり沖縄で世界に向けて、沖縄について知らせる会社がいいと思って、観光業や SNS などに力を入れている会社へ面接しに行ってみました。そして、ていーだブログという会社から内定をもらい、プログラムが終わっても沖縄に残ることができました。四月からは浦添で働くことになりました。ていーだブログでは台湾向けのアプリやウェブサイトなどを作る仕事もあるので、自分もこれから力になれると思います。そして、休みの時間を使っ

て台湾へ帰って学校の後輩たちにも自分の経験などを伝えることができるかと思えます。

この一年間、沖縄で留学ができて、自分の進むべき道も見つかり、目標も立て、社会人になる覚悟もでき、本当に心から感謝しています。私にとってこの一年間はとてもかけがえのない宝物です。そして、もしこのプログラムに選ばれなかったら、これから沖縄に残ることも仕事をするのも全部不可能だったと思います。沖縄から世界との架け橋になるためにこれからもがんばっていきたいと思います。

本当にこの一年間お世話になった県庁の人たちや財団の人たちや名桜の皆さんに感謝の気持ちを伝えたいです。修了式での余興で私たちの気持ちを伝えられたら嬉しいです。この一年間、お世話になりました、誠にありがとうございました。特にこのプログラムを担当している県庁の石橋さんと財団の金城さん、この一年間は本当にお世話になりました。本当にありがとうございました。お疲れ様でした。





## チャンプルーで良かった

翁長 ありさ（ポリビア）

琉球大学

### <自己紹介>

私はポリビアから来た日系二世の翁長ありさです。家ではいつもスペイン語で話していたので、日本語が全然出来ませんでした。その事で祖父母と少ししか話せなくて、22歳の私は大学を卒業して、日本語に集中する事に決め、初めて日本に来ました。アルバイトをしながら、忙しい生活の中で日本語に少しずつ慣れてきました。しかし、アルバイト先の友達からの言葉は面白すぎて今でも忘れる事が出来ませんでした。例えば、「ありさが使う言葉は江戸時代の言葉みたい」と言われて、もっと日本語の勉強を頑張らないといけないと思いました。



私は今まで沖縄に来た事がなく、家族や友達からの話を聞いて祖父母のふるさとしてある沖縄をこの目で見てみたいと思い、このプログラムに応募しました。

沖縄に来て思い出したのは、私が小さい頃、おばあちゃんが作るサーターアンダギーを待っている時のわくわくする気持ちです。

それは、温かい沖縄について「めんそーれ」じゃなくて、「お帰りなさい！」と聞いたからです。すぐホームシックになると思っていたのですが、ウチナーの温かさを最初から感じて、寂しくなかったです。

### <ウチナーンチュ子弟等留学生>

このプログラムを紹介してくれた、いところから色々聞いて、自分を成長させる研修だと思って応募してみました。日本語も出来ない、自信もない私が最初から何も知らなくて、元留学生達に色々相談をしながら、面接を頑張りました。

「沖縄に行くチャンスをもらえたら、後悔しないように頑張ります」と言いました。思ったより日本語が成長し、日本や世界の様々な人と交流ができ、この留学のおかげで日本を好きになりました。

楽しい、忙しい1年間の中で沖縄や日本本土の文





化や歴史について学んだり、色々な所へ見学をしに行ったり、県内旅行も県外旅行もあって、素晴らしい1年間を過ごす事ができました。

留学生たちとは様々な経験を一緒にして、本当の兄弟のように仲良くなれました。たまに言葉が通じなかったけれど、いつも楽しい時間を過ごすことが出来て、心の中にはいい思い出しか残っていません。日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語が混ざったりして、面白い会話ばかりで、みんなで会える時間をいつも楽しみにしていました。それから、金城さんと石橋さん、私たちの担当者が優しくて、丁寧に色々教えてくれて、心の底から感謝しています。



#### <ウチナーンチュのネットワーク>

沖縄県市町村研修生合同合宿にスタッフとして参加させていただき、研修生とスペイン語や英語などで話したり、今後のウチナーネットワークを強める活動を考えたりして、とてもいい経験でした。

世界ウチナーンチュ学生サミットにも参加しました。ボリビアの発表をし、世界のウチナーンチュとの交流が出来て、自分のウチナーネットワークが広がっているのを感じました。

ボリビア人でもない、日本人でもない人間だとずっと思っていたので、このプログラムに参加したおかげで、色々な研修生やハーフの友達と話して、やっ



ぱりチャンプルーでよかったと思いました。やっと自分のアイデンティティのことを理解することが出来ました。

私は沖縄に来る前からたくさん日系の国際交流に参加していました。しかし、どれも参加した理由は友達を作ることだけでした。沖縄に来て、国際交流して昔からある助け合いの心やウチナーネットワークを広げる大切さに気

づきました。これに気づいたおかげでポリビアと沖縄の絆がさらに強く結べるように頑張りたいと思います。

#### <大学での生活>

県費の先輩がオススメした琉球大学に決めました。最初、不安が多かったけれど、先生方が優しくて、面白い留学生も多くて、言語に興味がある大学生もいて、世界中の人々と交流が出来たのでとても嬉しいです。国々の文化や習慣などを学ぶことが出来ましたし、スペイン語専攻の大学生と一緒に助け合えたりしたからこそ友達が増えました。その人々のおかげで日本語の勉強を頑張って、成長したと思います。



日本語だけではなく、沖縄と日本本土の文化や歴史も学ぶことが出来ました。大学の授業は楽しくて、先生達も簡単な日本語で説明してくれたので、本当に良かったです。

そして、授業で色々な所へ見学しに行けて、沖縄の歴史や文化を楽しく学ぶことが出来ました。大学の研修の中で一番印象に残ったのはアブチラガマです。平和見学をしに行き、怖い、暗いガマに入って、沖縄戦の勉強し、戦争で生き残った人々の感想も聴けて、感動しました。自分の家族も戦争を経験した人なので、

その時まで戦争のこと全然聞いたことない私は泣きながら祖父母のことを思い出しました。

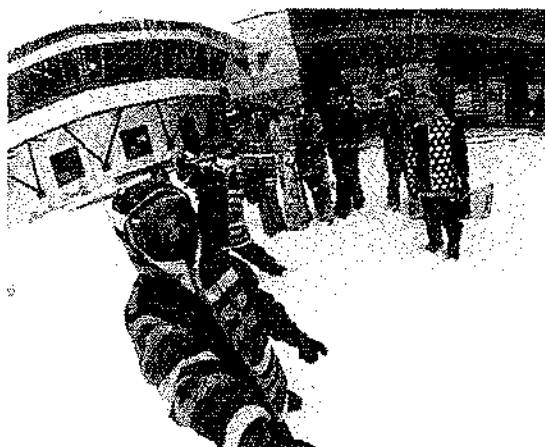
#### <個人的に行った所>

幼いころから日本全国を旅行したかったので、大学の夏休みに機会があって友達と一緒に旅をしました。2週間で夜行バスや、電車などをつかいながら福岡、広島、大阪、奈良、横浜、神奈川、埼玉にも行けて、最高な2週間でした。日本本土と沖縄の違いを見られて勉強になりました。

色々な神社やお寺などにも行けたし建物の作り方、町の雰囲気、人々の話し方に気づきながらとても楽しい経験でした。



日本に来る前に家族や友達の話聞きながら自分の頭の中で想像していたのを今回自分の目で見られてとても嬉しかったです。初体験が多い一年間でした。



あっという間に1年間がすぎて、帰国する時になりましたが、遊んだ分は満足したけれど、勉強はまだ続けたいと思います。この1年間はチャレンジが多くて、毎日新しいことを学び、本当に素晴らしい留学生活でした。この留学のおかげで、色々なことを学ぶことができ、これからも沖縄の文化やウチナーネットワークを広めるように頑張ります。

<ありがとうございました>

この留学の生活を通して、沖縄県、沖縄県国際交流・人材育成財団国際交流課とボリビア沖縄県人会、沖縄に留学するチャンス을くれて心の底から感謝しています。これからも沖縄とボリビアの橋を架けるように頑張りたいと思います。それから、金城さんと石橋さん、私たちの担当者のおかげで色々なイベントに参加出来たし、いつも見守ってくれていたし、何回も助けてくれました。本当にありがとうございました。

そして、琉球大学の先生、授業も楽しくて、先生達のおかげで日本語が成長し、色々な所へ見学しに行けて、日本や沖縄などのことがすごく勉強になって、心の底から感謝しています。

この1年間で支えてくれた人、一緒に楽しんでくれた人、色々教えてくれた人、留学生の皆様、真壁先生、WYUAの学生部、1年間お世話になりました、みんなのおかげでとても楽しい時間を過ごせて本当にありがとうございました！

イチャリバチヨーデーの気持ちで帰国して、いつか会える日を楽しみにします！

イッペーニフェーデービタン！！

## 私の沖縄の経験

呉屋 カサリン ドーラ(アメリカ合衆国)  
琉球大学

今年は私が永遠に心に留めるすばらしい経験でした。私が会うことができた人たちと、私が1年での経験は、文化が違う人には親切にしないといけないと気付かせました。

私が初めて沖縄に来たとき、私は言語がよくわからず、初めての私一人での生活が、とても怖かったです。それに慣れて、本当に周囲のすべての人々に訴えたら私を助けてくれました。

沖縄の文化を理解する上で最も大きな要因の一つは、私の沖縄の文化と歴史のクラスでした。これはアカマ先生が教えてくれました。彼女は私たちに沖縄の重要な歴史的出来事を教えただけでなく、過去と現在の両方で沖縄の文化を説明することができました。このクラスでは、主要島にあるさまざまなグスクへの野外ツアーや、フェリーで久高島へ行きました。沖縄の島の起源についての物語は、私が学んだ他の文化の起源の物語よりもずっと面白いです。そして、島がとても緑豊かで、島のすべての植物と神聖な空間に私は驚いています。

他の県費の学生たちと一緒に、私たちは伊江島に行き、歴史、古い文化、そして現在の文化を体験させてくれるホストファミリーと一緒にいました。ありさ、りえ、私で構成された私のグループは、私たちのホストの母と父が私たちを島のいろんな場所に連れて行って、沖縄そばとサーターアンダギーを冷やす方法を教え、私たちをダンスのスタジオに連れて行きました。

私たちはエイサーの踊り方を学ぶことができました。最初のダンスは遅かったので、学ぶのは簡単だと思っていましたが、他の人と一緒に試してみると間違っていました。踊り方を学び、彼らを尊敬し、感謝しました。

この写真はれいり、ありさ、私が伊江島の山を下り始めたときの写真です。登りは非常に急で、降りる時を心配してしまいましたが、幸いにも、私たちは落ちることはありませんでした。沖縄の島だけでなく島全体を見ることができたので、上からの眺めは息を呑むほどでした。

沖縄の私の好きなグスクのひとつは中城城です。私は一度しか行ったことがありませんが、沖縄建築の印象に本当に大きな影響を与えました。







私が行った日は晴れていましたが、涼しいので、私たちは地面を探索していました。空にはわずかな雲しかなかったので、写真を撮ったり、壁のさまざまな構造の細部を見たりするのに最適な一日でした。もっともインパクトを与えたのは、日本語で話していた指導者がいて、英語のスキルが上手くない人のために、簡単な英語で訳したことでした。

中城には裏切られた王がいました。結局、王は無事でしたが、彼を裏切

った者は殺されました。中城の村では、殺された人は王を裏切らなかった人々だと言います。他の人々は、殺された人が王を裏切った人だと言っているそうです。

この敷地を歩くと、異なる3つの時代の建物様式をはっきりと見ることができます。そして、これらがすべて一つの城を構成します。私にとっては、過去の経験から成長し、常により良いものになるように自分自身を構築することを象徴しています。



沖縄の有名な場所を探検することは一つの経験ですが、島の北部にある森での経験はそれらと全く違った経験でした。

有名な場所は歩きやすく、周りを見回すために作られています。沖縄の初期の人々には森に住んでいる人もいました。

私がトウウ、インドネシアの友人フィコ、琉大の先生と一緒にハイキングをしているとき、自然の植物や動物だけでなく、家の遺跡を川に沿って見ることもできました。壊れた陶器と屋根のタイルも見つけました。私たちがそれを拾うと、これらの遺跡を研究する人がいることを知り、それを戻さなければならぬと言われました。私がただ山々をハイキングすると、それらが失われてしまうので、先生が道をリードしてくれてとてもうれしく思っています。

私は野生の肉食植物を驚くほど見つけました。

美ら海水族館は、地元の海の野生を知るには最高の場所です。私は水に住む動物を含むあらゆる種類の動物について学ぶのが大好きでした。だから、私が水族館に行くとき、何時間も滞在することができます。美ら海水族館は特別なものです。ジンベイザメを保有するだけでなく、沖縄周辺のさまざまな生態系を示すためのタンクです。



私の2つの最も好きな展示は、有毒な海洋生物の展示品とサメのタンクです。全てのタイプの動物がどのようにして彼らの環境に適応したか、かくれているか、自分自身を守ることができるか、など驚くべきことを知ることができます。

残念ながら、私はすべての展示を見ることができなかったので、沖縄を訪問するときには、沖縄の海洋野生生物を知り、キャンパスを歩いて1日を過ごすことが目標です。



日本語と沖縄を愛している友人がたくさんできました。

沖縄と沖縄の人々は、歓迎の気持ちと美味しい食べ物、とても美しい文化を持っていて、私たちをいろいろなところへ連れていきました。他の国の友人たちと私は、沖縄について、歴史や考え方が違っても、地元の人々と友達になり、生活習慣を学ぶことによって、沖縄についてできることをすべて学びたいと考えています。

私が初めて沖縄に来たとき、私は日本語が苦手だったので、私が住んでいた町の歴史やその歴史的な史跡を私の周りの人に聞くことができませんでした。

私が知っていた唯一の場所は観光地でした。当時はそれで十分でしたが、私は自分自身で見つけないかと思っていました。今年の沖縄では、多くの場所を訪れて、たくさんの人と話をしました。沖縄のことを学ぶことに熱心だった人たちと友達になり、お互いに教え、学ぶことができました。

この驚くべき場所を離れなければならないのは本当に悲しいことですが、私が作ったもの、遊んだり、読んだり、私が学んだことについて家族や友人に教えることができます。私は、沖縄の美しさについてもっと多くのアメリカ人に知ってもらい、ここにある暮らしについて教えたいと願っています。

私の家族は沖縄やその文化についてはあまり知りません。私の偉大な祖父が生まれた沖縄について私の家族に知ってもらいたい。私の兄弟の子供も沖縄のこと教えてあげたいのです。

私は、三線の演奏に興味があり、沖縄に戻ってくることを願っています。沖縄の人々が楽しむ伝統的な歌を家族に教えたいと思います。

## 遠く離れた親しい島

天願 マリア バレリア 小百合（アルゼンチン）

琉球大学

沖縄に来て1年間、あっという間に過ぎてしまいました。

子供の頃、豊見城村に住んでいたときの思い出を思い出しながら、今現在の沖縄と出会い、変わった視点から新しい思い出をたくさん作りました。1年間沖縄の大学に通い、貴重な機会を与えてくれてありがたい気持ちです。

琉球大学では、日本語に加えて沖縄史と沖縄の文化について学べました。アルゼンチンで沖縄関係の資料は不足していますが、琉球大学の図書館へ行くと分類されている「沖縄資料室」や「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ」、「琉球語音声データベース」、「貴重資料写真コレクション」などもあることを知って非常に驚き、日本語を早く読めるように頑張りたいと思いました。



沖縄について気づいたのは、南米から見える沖縄と日本本土から見える沖縄、さらに沖縄から見える祖父母の故郷の沖縄、様々な視点から見ると違うイメージが浮かび上がることです。沖縄に1年間暮らしたら、現地の状況、気候、ライフスタイルなどを把握し、出身地のアルゼンチンとはいくつかの相違があると思いましたが、沖縄と移民先で全く変わらないと思ったのは沖縄の人の優しさと心の温かさです。



沖縄での留学で沖縄史を学びながら、自分の歴史を辿ることもできて沖縄について興味が深まりました。

例えば、授業の課題のために沖縄の歴史の本を読んでいたら、私の曾おじいちゃんは「ソテツ地獄」の時期に移民したことを初めて知りました。はっきり移民した理由は、まだ詳しく親戚に聞いていませんが、「ソテツ地獄」のことを知った途端、アルゼンチンに電話し、実際に曾おじいちゃんはその年代に移民したことを確認できました。「ソテツ地獄」について聞いたこともなかつ



た私にとっては重要な発見でした。戦前沖縄の様子を写真集で見て、アルゼンチンに足りない情報を探しながら、祖先の故郷はどのような所だったのか知りたくて、沖縄について興味が深まりました。

沖縄県立芸術大学でずっと前から知りたかった沖縄美術工芸史に関して学びました。沖縄の伝統工芸の特殊性、各模様の意味と由来、中国や東南アジアの影響を与えた作品などを具体的に分析し、夢のようでした。

「現代芸術概論」と呼ばれる授業にも聴講する機会があつて、アルゼンチンで勉強していた自分の専門に関わる科目を、日本語で受けるのはとても面白かったです。また、沖縄伝統工芸のなかでグラフィックデザインと一番近いと思ったのは紅型染めでしたので、近くの紅型工房にも行ってみました。

工房の先生方と話して、体験させていただき、技術だけではなく、宮古島出身の紅型の先生は離島の文化について教えてくれました。現地の人々と交流ができてとても良い経験でした。



留学に来る前に、沖縄は私にとって祖父母の故郷でした。しかし、1年間沖縄に生活し、沖縄の人々と出会い、沖縄の社会と触れ合い、県系人は沖縄の多様性の一つの部分なのではないかと思いました。

祖先が生まれた遠く離れた島のことだけではなく、自分のルーツ、自分の歴史のある所、自分の郷里として感じるようになりました。

誇りに思う沖縄について研究したいと思うようになり、将来的に沖縄と移民先の架け橋になりたいと思いました。沖縄と次の世代の県系人たちとの繋がりが深めるために貢献して行きたいです。沖縄県の皆様、1年間本当にありがとうございました。

## 沖縄との出会い 人生のいい記憶に

張 韜宇（中国）

琉球大学

2017年4月13日に沖縄に来てからもうすぐ一年間です。沖縄に来る前には、ここは美しい海が見える島というイメージだけを知っていました。私のような外国人がネットの写真から知る沖縄のことは緑の海と青い空と綺麗な魚だけです。

しかし、この一年間の生活で、沖縄のことについて新しい認知がありました。まずは戦争と平和のことです。

沖縄は沖縄戦の特徴を表す表現として戦後長らく「第二次世界大戦の時、国内唯一の地上戦があった場所」が使われてきました。そして、沖縄での両軍及び民間人を合わせた地上戦中の戦没者は20万人とされています。戦争中、身を隠す用のガマにも入りました。私もその時ガマに隠れた人の絶望的な気持ちをちょっと感じました。

そして、6月23日は慰霊の日だから、平和祈念公園へ行きました。平和祈念資料館で沖縄戦についていろいろ勉強しました。

移民のことです。沖縄の移民の歴史はもう百年以上でした。いろいろな理由で海外へ移民しました。移民関係の劇をみたり、移民の懇親会に参加したりして、沖縄住民と移民した県民と移民地の友人との感情に感動させてもらいました。



2017年7月2日に神に見守られ、神と共に存在する神の島と言われている久高島を見学しました。日本人の友だちと一緒に海の彼方のあの世「ニライカナイ」に一番近い島で、見て、祈って、笑って、感動しました。小さな島ならではの素晴らしい海の色を楽しむことができます。初めて、沖縄の海の美しさを感じました。そして、沖縄の人の信仰を感じました。



2017年8月12日、県費留学生達と一緒に沖縄県立博物館・美術館を見学しました。ガイドの解説を聞きながら、常設展を見学しました。そして、琉球と中国と日本の付き合いの歴史や琉球の万国津梁の鐘の意義を学びました。琉球王国時代の入移民と沖縄時代の出移民の由来も勉強しました。



2017年8月14日から8月18日までの一週間、西原町社会福祉協議会でインターンシップをしました。色々勉強になりまして、学校で習えないこ

とを沢山感じることができました。そして、福祉協議会のスタッフ達は優しく真剣にいろいろな福祉関係のことを説明してくださいました。

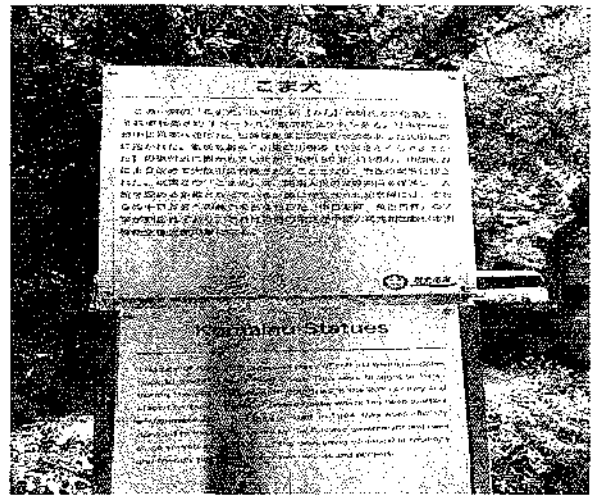
この一週間、私は主に協議会の高齢者関係の部門と障害者サポートセンターの仕事を見学しました。そして、スタッフ達と交流しながら、ちょっと簡単なことを助けながら、日本の地域福祉の事業を少し理解しました。現代の日本は、老人ホームなど専門的な施設から地域福祉や居宅介護へ発展しました。政府が資金を支援して住宅地域によってボランティアを主体にして住民達がお互いに助け合い、成熟的な地域福祉事業になりました。そして、高齢者の健康のために、いろいろな教室や活動を展開しています。そして、高齢者や障害者向けの相談サービスもあります。沖縄の人は中国人の家族観念と似ているので、いろいろな経験は中国も勉強出来ると思います。

8月の末、県費達と一緒に沖縄の伊江島へ二泊三日の研修をしました。沖縄の民宿に感動しました。最後の日は、伊江島の有名の「ニーバンガズィマール」をみました。それは沖縄戦の時、木上の兵士の話です。

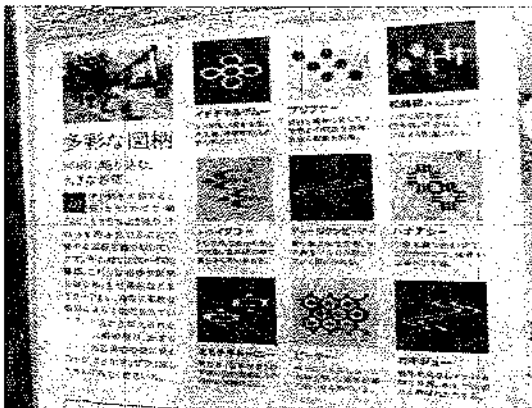
9月の夏休みの時、私は日本本島へ一週間の関西見学をしました。



日本本島へ行くのは初めです。日本の第二大都市大阪の発達した交通線路や歴史的価値がある大阪城や和風いっぱいの京都や近代的な神戸を見学しました。日本の歴史跡にはいっぱい中国に似ているところがあります。古い建築も食べ物の由来も中日両国の友好交流の証拠だと思います。

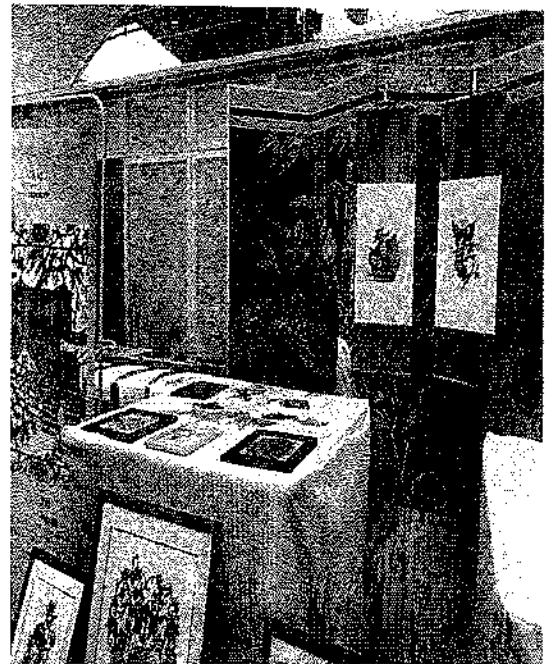


2017年11月23日、那覇の街と伝統工芸の琉球漆器体験をしました。午前、ガイドの解説を聞きながら、国際通りの近くの町を見学しました。午後、伝統工芸体験「琉球漆器」の堆錦を体験しました。最後、琉球紅型の展覧会を見ました。見学を通して、国際通りにたいして新たに理解しました。もともと国際通りは沖縄の観光客に向けてショッピングするだけの場所だと思っていました。その存在は、沖縄の人が戦後に自分自身の悲しみから離れようと試みて、新生活と幸せに対する気持ちと決心を表していることを分かりました。新しい環境のもとで、繁栄を作る能力と精神に感動しました。



2017年11月24日、沖縄県と福建省友好県省締結20周年記念式典に参加しました。福建省の副省長一行は沖縄に来て、今までの県省友好を交流したり、将来の共同発展を展望したりしました。お互いに自分の伝統文化を展示しました。

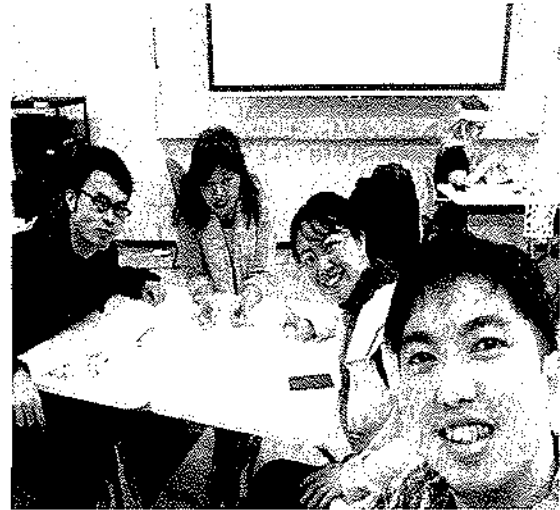
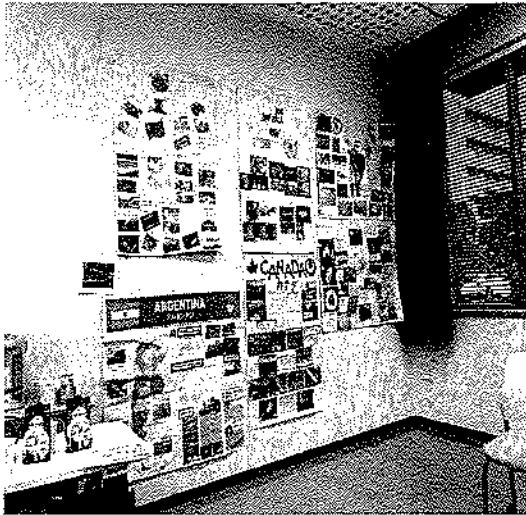




2017年12月2日、沖縄地域留学生交流推進協議会留学生親善交流会に参加しました。2017年12月5日、学校の授業で琉球大学教育学部附属中学校の1年生の学生達と交流会を行いました。留学生達と生徒達は自分の文化等をお互いに紹介したり、疑問とかを聞いたりして楽しかったです。



2017年12月9日、琉球大学の第二回留学文化交流会に参加しました。私は主に今年五月に県費留学生達が作った自分の故郷についての「パネル」を皆さんに見せたり紹介したりしました。



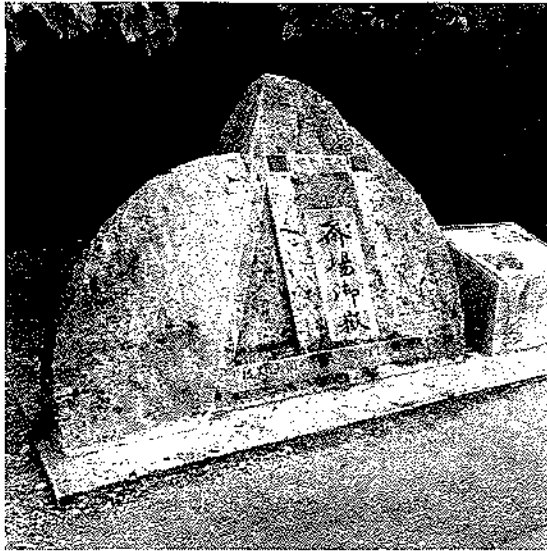
2018年1月、糸数城と玉城城と斎場御嶽へ見学に行きました。  
糸数城は今も立派な城壁が残っています。



玉城城は素敵なグスクだと思います。その城門は特別な形で面白いです。そして、その方向もわざと夏至の日に日の出がちゃんと見えるように設定されました。形は琉球王国の繁栄と深く繋がりを持っていて、貝と似ています。なんか中国の風水と関係はあるのかなあと思いました。



斎場御嶽は靈力がある場所だそうです。森と水は生命力をあらわしているからだと思います。聞得大君が祈っている場所だそうです。

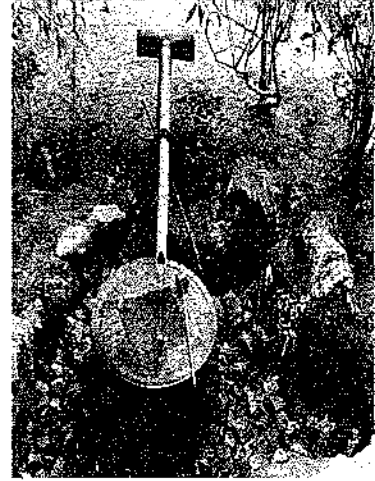


その以上の所は全部神の島久高島が見える場所です。それは、沖縄の信仰でしょう。

そのあと、沖縄の普天間天満宮を見に行きました。それは、沖縄の神社みたいなところだと思います。それは、日本の鳥居と違って沖縄独特の信仰です。



2月の中旬の時、県費留学生達と一緒に京都へ研修に行きました。三日間で二条城と龍安寺と京都御所と祇園と伏見稻荷大社を視察しました。いろいろなことを勉強しました。



2月17日、沖縄の一番北のヤンバルへ行きました。ヤンバル中のある沢と  
いろいろ生き物を見に行きました。天然の森の中を歩きながら、蛙を探したり、  
植物をみたりしてとても楽しかったです。



今回の留学を通して沖縄の信仰や自然をいろいろ感じたり、日本本島の文化  
も感じたりしました。日本の文化と中国の文化と比べて、各々の特徴がありま  
すが、歴史から見ると深い繋がりががあります。沖縄と日本本島は島だから、自  
然の信仰は今もどこでも感じられます。沖縄の気候は中国の福建省と似てい  
るし、何百年前から交流し始めているし、生き物や文化は似ています。

国際交流は本とかネットとかを利用するだけでは不十分です。自分でその所  
に行って文化と考え方を体験すべきです。交流してから理解し合いやすくなっ  
たら、誤解を消すことができます。誤解がなければ、喧嘩とか戦争とかは行わ  
ないはずと思います。

帰国してから、中国の友達に伝えたいのは、日本へ旅行したい時、ぜひ沖縄を第一の選択肢にしてください。自然とかの研究をしたい人にもぜひ沖縄を選んでください。中国文化と似ているので、高齢者福祉のやり方を考察したい人はぜひ沖縄へ行ってください。沖縄は琉球王国時代から特別な貿易位置で万国津梁と言われています。いまもその特別な歴史と位置を利用して国際文化の万国津梁になれます。

## 祖国の経験

比嘉 ショーン ロベルト タダシ (カナダ)

琉球大学

この一年、たくさん新しい経験をして、沖縄文化と沖縄の歴史についてたくさん習いました。沖縄県・財団や大学や親戚や自分によって、多くのことを経験しました。この一年間は私にとって最も大切な一年間と思います。

6月16日に沖縄歴史の授業のために、南風原町立南風原文化センターと沖縄陸軍病院南風原壕群20号を見に行きました。

南風原文化センターのおもな内容は沖縄戦です。センターの展示の例は、けがをした軍人と看護師とひめゆり学徒隊のマネキンを入れた陸軍病院の展示でした。その展示で陸軍病院の窮屈さが経験できました。

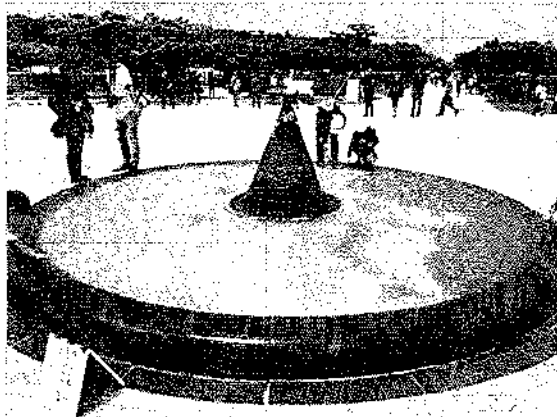
他の展示は南風原に住んでいた戦争で亡くなった人の名前が全部の塀に記してありました。その塀はあまり大きくなかったけど、数千の名前が書かれていました。たくさん欠けた軍の物が亡くなった軍人のことを示しました。

後で本当の陸軍病院に歩いていきました。文化センターの展示は窮屈さを表したけど、本当の陸軍病院はもっと暗くて、たくさんの人がいたら、もっと蒸し暑くて、暑くて、ひどくなったと思います。

6月23日に慰霊の日のために平和祈念資料館を見に行きました。沖縄の歴史の授業と南風原文化センターで沖縄戦についてちょっと習いました。

始めに資料館を自分でツアーをしました。その展示がたくさんあるので、沖縄戦の厳しさを知ることができました。

展示を見た後で、資料館を出て、平和祈念公園に入りました。平和の礎で祈念の石と平和の火と崖の向こうの海と一緒に穏やかで厳かな空気を作りました。全体として、とても厳かな経験だったから、全然忘れられません。最後、慰霊の日の式典を見に行きました。子供が歌ったり、高校生が詩を歌ったり、安倍首相と他の政治家が話したりしました。



8月28日から8月30日まで伊江島で民泊をしました。伊江島の村民のうちに泊まりました。

最初の日、色々なところを遊覧しました。例えば、アハシャガマとかワジーとかニヤティアガマとか芳魂之塔を見に行きました。夜に港でエイサーのグループの練習を見に行きました。

次の日に伊江ビーチでみなさんと集って遊びました。後で、グスク山を登りました。山に初めて登ったので、素晴らしい経験でした。

最後の日、民泊の家族に切った草を集めるのを手伝った後で、みなさんと一緒に沖縄に戻りました。



12月31日にお正月のために名護の数久田に住んでいる親戚の家で泊まりました。午後から親戚が遊覧させてくれました。

最初に今帰仁城に行きました。その前に首里城と中城城と浦添城を見に行きました。桜はまだ咲いてなかったけど、山と海の景色はとてもきれいでした。

次に、古宇利島を見に行きました。海と古宇利橋と屋我地島の景色もかなりきれいでした。最後に親戚の家に戻って、晩ご飯を食べて、静かなお正月をしました。

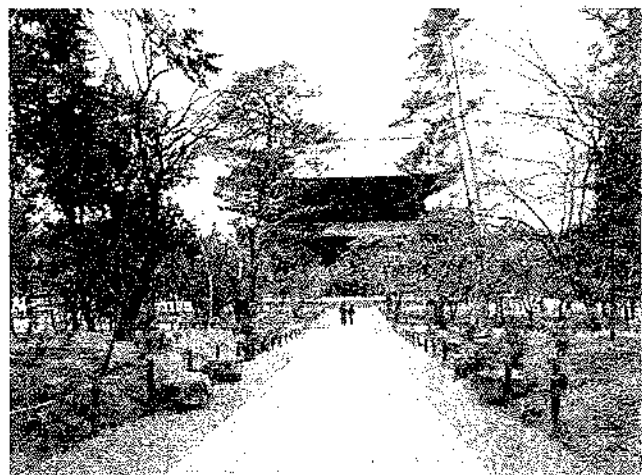
2月14日から16日まで、京都市で研修しました。初めの日はお昼ぐらいに着いて、早い昼食後、バスツアーが始まりました。最初に二条城に行って、小さいツアー後に、自分で見てまわりました。日本本島にいないと思っていたから、ソテツをみるとびっくりしました。

後で龍安寺を見に行きました。あそこはきれいな庭園があって穏やかな空気がありました。

次の朝に、京都御所でガイド付きツアーをしました。幕末に対して、京都御所と二条城の関係が面白かったです。建築は明るく素晴らしかったです。

後で、グループと一緒にどこでも行ける時間がありました。

他のグループと合流して、銀閣寺と南禅寺水路閣と八坂神社と三十三間堂と清水寺を一緒に見に行きました。全部の所はとても面白かったけど、忙しい日でした。後で、みなさんと会って、京都タワーに行って、晩ご飯を食べに行きました。次の日、沖縄に戻りました。



この一年間、大きいのも小さいのも、いっぱい祭りを見に行きました。

最初に行った祭りは那覇ハーリーでした。ちょっと遅れて着いたから、ハーリーを見逃してしまったけど、祭りは楽しくて、レスブリッジの祭りに似ていました。

次に行った祭りは一万人のエイサー祭りでした。パレードのエイサーの演舞が達者で、エイサーをする人の多さは凄かったです。

10月8日那覇祭りの大綱引きがありました。世界記録の大きい綱引きがすごく大きくて、楽しいイベントでした。

北谷町のオクトーバーフェストではビールと食べ物の国際文化が多かったら、面白かったです。首里祭りの歴史のパレードが面白かったです。名護花祭りは楽しくて、名護神社で景色がきれいだけど、桜はちょっとだけ咲いていました。最後に読谷村の紫村の琉球ランタンフェスティバルに行きました。昼間に行かなかったけど、夜はランタンが素敵でした。

この一年間は絶対に素晴らしかったです。沖縄の文化と沖縄の歴史についてたくさん習いました。日本語力が進んだけど、会話はまだ苦手です。

沖縄の文化が凄く多様で面白いです。音楽とか漆器とかやちむんとか紅型などがとても面白いですね。沖縄のチャンプルー文化はいろんな文化があるカナダの文化的モザイクに似ているから、馴染み深いです。凄く遠い親戚に会うことが素晴らしかったです。ここに住んでいた経験が忘れることができません。

カナダに帰った後で、一番大事なことは家族に沖縄の事について教えることとだと思えます。沖縄文化について教えたいです。私だけ日本語を話せるから、日本語を教えたいです。沖縄の親戚について伝えたいです。ウチナーンチュ大会のために沖縄に戻りたいです。ここに来るチャンスをくれて、全てしてくれて、本当にありがとうございました。



## 初体験の一年

大田 怜里（ポリビア）

琉球大学/特定非営利活動法人亜熱帯バイオマス利用研究センター

私の祖父母の故郷の沖縄に始めて来たのが2014年、姉が県費留学で沖縄の紅型を学んでいたときでした。その時私は沖縄の人達に親切に優しくしてもらい、他の県費留学生もみんな優しくすぐに友達になってくれました。色々沖縄での生活をお話するごとにこの留学のことが気になっていきました。私のルーツである沖縄をもっと知るためにもこのウチナーンチュ子弟等留学生受入事業に応募することを決めました。

合格と伝えられた時とても嬉しかったです。不安もありつつ、なにも後悔しないように生きた一年間でした。

### 琉球大学

私は琉球大学で文法、聴解、会話、アカデミック日本語、口頭表現、ビジネス日本語、沖縄の文化と沖縄の歴史の授業を受けました。他にも農学部の農業生産システム論、バイオマス工学と農業情報工学の授業も受けました。

日本語の授業では論文の書き方、敬語、討論のしかた、発表のやりかた、沖縄の文化と歴史などを勉強しました。沖縄の文化の授業ではアブチラガマや、やちむん通りなど沖縄の昔の生活や沖縄戦時の人々の苦労なども知ることができたので琉球大学を選んで良かったと思いました。



農学部では日本の栽培方法や農業の法律、現在の状況や抱えている問題、バイオディーゼルやメタン発酵など再生可能なエネルギー、そして Excel のプログラミングを教わりました。私は大学で農業専攻では無く、ポリビアの大学と授業の進め方が違ったのもあり苦労はありましたが、留学で来られたからこそ

学ぶ事ができるのだと知っていたので、できるだけ全部理解しボリビアに帰国してからどうにか活かしたいです。

## 企業研修



10月からNPO法人亜熱帯バイオマス利用研究センターでの企業研修が始まりました。

企業研修では主にカロフィラム・イノフィラムの調査を行いました。種子の重量測定、乾燥調査、殻剥きや搾油と濾過を教えてもらいました。私は大学の農業専攻でもなければ調査の知識も無かったので、すること全部が初めてであり、とてもいい経験をしたと感じています。

琉球大学で行ったJICAの研修コース「バイオマスの活用による持続可能な地域開発」に時々参加

させてもらいました。世界各地の研修生たちと再生可能エネルギーの大切さ、種類、どの様に日本で実現されているか、などを学びました。一緒に那覇・南風原クリーンセンターや八重瀬町のバイオガスプラントで、沖縄でのごみの処理の仕方を見学しました。正直家庭の燃えるゴミが燃やされ、その灰がアスファルトの素材として使われていることにびっくりしました。



琉球大学で行った沖縄農業研究会ミニ・シンポジウムも拝見することができ、バイオ炭を用いた農業、環境およびエネルギーのイノベーションをテーマにサトウキビのバイオ炭の肥料としての効果や体への影響などを学び、研究の楽し

さと難しさを知ることができたと思います。



NPO法人亜熱帯バイオマス利用研究センターでは他にもサトウキビの品質評価を行いました。昔ながらの方法とNIR（近赤外線分光法）で糖度の計り方を教えてもらい、新たな技術がどれほどの時間と工程、そして

コストを減らすことができるのを実感でき、研究の大切さを改めて考えました。

企業研修を始める前は少し不安で心配していましたが、温かく受け入れてくれてとても嬉しかったです。私が知らなかった事をいっぱい学んだり、南大東村での現地調査や東京の化粧品展にも参加させてもらったり、生活面でも助けてもらったこともあって心から感謝しています。

### ウチナーンチュ子弟等留学生の研修を通して

ウチナーンチュ子弟等留学生の研修で一番印象に残ったのは平和学習研修でした。慰霊の日に沖縄県平和祈念資料館を見学し、沖縄全戦役者追悼式に出席し、平和学習ワークショップをしました。



ワークショップでは、沖縄戦のことや資料館と式典で学んだこと感じた

ものをグループで話し合い戦争のこと、沖縄戦のこと、これから私たちができることなどを考えました。沖縄戦のことはボリビアではあまり聞いたことが無かったので戦争での全死亡者(200,656人)のうち122,228人が沖縄の人だったこと、そして巻き込まれたほとんどが戦争に関係もない住民だったとは知りませんでした。それでどうしてもアメリカ軍に殺された人たち、日本軍に殺された人たち、そして家族で自殺した人たちが少しでも違う判断をしていたらその人達は救われていたかもしれないと思ってしまいました。

沖縄県主催のイベントにも参加させていただきました。

一つが歴史学習バスツアーで、ドイツと日本の第二次世界大戦の向き合い方



の違いや、沖縄戦の事ことを学びました。そして他の参加者とグループになり平和祈念資料館で一人の戦争の犠牲者のことを調べ、ほかのグループに説明しました。

もう一つがウチナーネットワーク大合宿で、格差をテーマに大学生とグループでワークショップを作成しました。ど

の研修も学ぶことだけではなく伝える大切さを教えてくれました。

金武町主催の沖縄市町村研修生合同合宿で WYUA (World, Youth, Uchinanchu, Association) の学生部のスタッフとして参加させていただきました。アメリカ、ブラジル、アルゼンチン、ボリビアとペルーの研修生達に沖縄の移民の歴史をスペイン語に通訳し、帰国してからどのように自分たちの市町村人会で活動するかスケジュール作成をサポートしました。私も帰国したらどのような活動を行えばいいのか、何をしたらウチナーネットワークを広げられるのかを考えさせられました。



### 感謝の気持ちを込めて

この一年間は初体験が多い一年でした。

農業の授業から沖縄の歴史の授業、企業研修、旅行など自分を成長させる出来事が多かったと思います。その体験、経験を与えてくれた琉球大学の先生方、NPO 法人亜熱帯バイオマス利用研究センター、沖縄県国際交流・人材育成財団、沖縄県にとっても感謝しています。

これからはウチナーネットワークの大切さを心がけながらボリビアで、沖縄で習ったことを全部伝えられるよう頑張ります。

## もっとウチナーを

朱 宥任（台湾）

琉球大学/株式会社東洋企画印刷

### 留学生活

平成 29 年の四月から琉球大学に入って、九月まで約半年の留学生活が始まった。

留学してから、まずは授業です。今の授業は大体日本語の授業ですが、琉大の先生は日本の文化と社会を紹介するテキストを私たちに配りました。例えば、聴解授業の葦原先生は今、日本の内地でも大人気、沖縄出身のバンド「HY」を紹介する番組を私たちに見せました。それで、HYが沖縄戦の歴史に基づいて「時を超え」という曲を作りました。

勿論、日本と沖縄の歴史の授業もあります。特に「沖縄の文化」という授業では、先生はよく皆を連れて、何処かを見学しました。例えば、前は那覇市伝統工芸館に行って、琉球ガラス、壺屋焼、首里織などを見ました。これは、琉球ガラスを作る時の写真です。



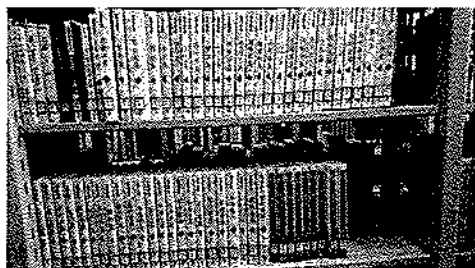
あとは沖縄戦の勉強のために、ちょっとガマに入って体験しました。本当に光がなく、懐中電灯を消すと何も見えないところです。あの時の人はこんなところで何ヶ月も過ごしたことを想像しても、やはり辛いと思います。



そして、私は元々は台湾で文学を勉強したから、ここの文学に関することもちょっと探しました。まずは琉球大学の中で、「台湾作家全集」という台湾小説シリーズを見つけました。これは台湾文学界の代表小説を集めた、とても貴重な小説シリーズですが、沖縄でこの小説シリーズを見ろとは思いませんでした。ここにも台湾文学に興味があった人がいたのは、うれしいと思います。

学校以外も、文学に関するところを探しました。今最も印象に残っているのは「市場の古本屋ウララ」という日本で一番小さい本屋さんです。私は沖

縄に来る前に、この本屋さんの店長、宇田智子さんの書いた本『那覇の市場で古本屋—ひょっこり始めた〈ウララ〉の日々』を読んでから、ずっと店に行きたかったのです。今回やっと行きました。本当に小さい本屋さんでしたが、沖縄の文化、自然とかいろいろな本があります。ちょっと残念なのは、店長の宇田さんがいなかったので会えなかったことです。



そして、私は野球が大好きで、野球コラムで文章も書いているので、せっかくだから日本と沖縄の野球試合もちょっと見ました。今年は那覇で二つのプロ野球の試合がありましたが、一つは雨天のため中止になりました。幸いもう一つは晴れたので順調に行きました。ロッテと西武が延長戦で勝負を決めて、いい試合と思います。

さらに、もっと沖縄の野球をしりたいので、私は沖縄の野球についての映画「沖縄を変えた男」を見ました。あれは、沖縄水産の監督萩弘義が厳しい練習を通じて、強い野球チームを作り、甲子園に進出決定させた映画です。映画の中に、本当に選手たちの「圧倒的な努力」が見えて、強い精神力を感じました。

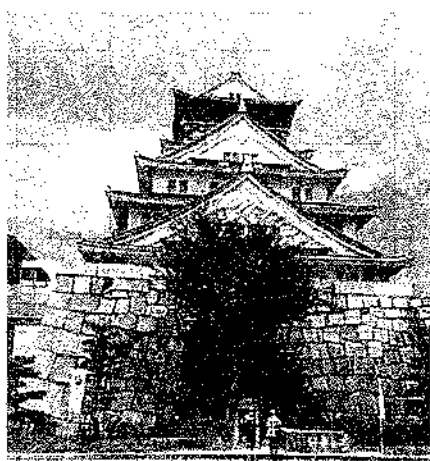


## 夏休み

8月からそろそろ日本の夏休み時間です。この時間で学校外で勉強することもできます。私は9月で大阪、京都とか関西へ旅行しました。もちろん遊ぶこともしましたが、関西には日本の歴史、文化に関するスポットがたくさん

んあるので、大阪の大阪城、奈良の東大寺、京都の金閣寺などにも行きました。その中で、特に大阪城がイメージに残りました。何故なら、実は私はゲーム「信長の野望」、ドラマ「真田丸」と小説「徳川家康（山岡荘八）」などの中で、少し戦国時代のことを勉強しました。今回は本物の大阪城を見て、またあの頃の話思い出しました。

これは大阪城と豊臣秀吉銅像の写真です。



関西のもう一つは、高校野球の聖地「甲子園」です。甲子園は球場だけではなく、高校野球の歴史が載っている「甲子園歴史館」もあります。その中には多くの日本高校野球の情報があつたが、私にとって一番気になるのはやはり台湾の嘉義農林高校「KANO」が1931年に全国中等学校優勝野球大会で出場、準優勝できたことです。これを見て、また感動を感じました。

野球に関する展示は関西だけではなく、沖縄にもあります。第99回全国高校野球選手権大会の沖縄大会を行っているあいだ、セルラースタジアム那覇で野球資料館特別展が開催されました。沖縄高校野球の歴史、有名な選手たち、興南高校が2010年に甲子園で連覇など名試合の資料もたくさん出てきました。もちろん私はそれを見た後、沖縄大会の決勝戦も見に行った、結局は興南高校が勝って、沖縄県代表として甲子園進出になりました。

これは特別展の会場と興南の勝利速報の写真です。



夏にもいつもにぎやかな国際通りは、今年の夏も「一万人のエイサー踊り隊」という祭りが開催されました。その中にはエイサーの専門家、ファン、さらに子供と県外の人までもたくさん人が集まりました。老若男女を問わず一緒に音楽と一緒に踊って歌って、最高でした。

皆一緒なことがもう一つ、私の知り合いの一人の玉元さんは、実は宜野湾青年会議所に勤めています。彼女はある日「台湾員林から10名ぐらい子供が宜野湾にホームステイするけど、朱さんは手伝ってくれませんか」と言ったから、私はボランティアとして通訳をしました。楽しい三日間を過ごしました。私は自分ができる限り沖縄と台湾の交流に協力できて、うれしかったです。



## 研修生活

平成29年10月から、私は東洋企画印刷で研修を始めました。東洋企画印刷は出版、デザイン、印刷、印刷品制作など、様々な分野で活躍している会社です。私は一応台湾で出版したことがあるから、これからもっと日本、沖縄の出版に関することの勉強を始めました。

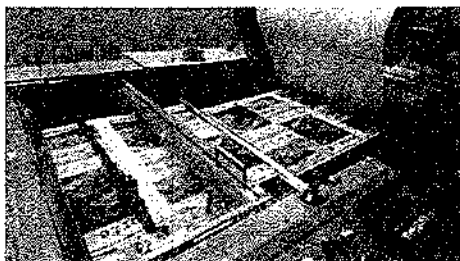
まずは、私は日課として、印刷概要の授業を受けました。この「授業」は毎日30分ぐらい。先生は、制作部の福谷さんといいます。彼は、印刷機の原理、本の仕組み、世界最先端の印刷技術とか、いろいろ教えてくださいました。もちろん、その中には、例えば電子の紙、色の仕組みとか、私が知らないこともいっぱいあります。充実していました。

そして、うちは沖縄文化向け雑誌「モモト」と旅行向け雑誌「ポルト」を作っているのだから、私も見学しながら、雑誌の制作に協力しました。具体的には、私は編集会議に参加したり、編集部の人と一緒に取材したり、図書館やネットでリサーチしたりしました。



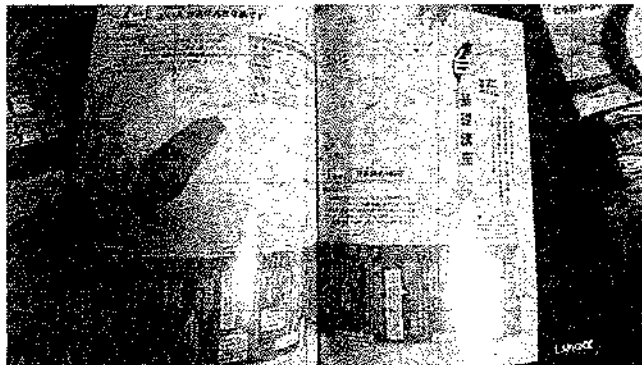


前に言った通り、うちは印刷物も作っているので、印刷場のことも勉強の一環です。前は、今の工場は何でも機械が作れると想像していたが、実際現場に行くと、意外と人力で完成すべきことも多いです。だけど、やはりすごい印刷機も持っているので、一度に大量の紙を印刷することもできます。「出版物はこういうふうには作られていたか」と、心に刻まれました。



そして、うちは出版会社をやっているなので、時間があつたら私も会社内の本を読んでいます。例えば、「モモト」は2014年に台湾特集を作りました。内容はとても充実、私も知らないことも載っています。例えば「琉球処分」。

実は遠因が台湾で起こった「牡丹社事件」(ぼたんしゃじけん、あるいは「征台の役」、「台湾事件」とも呼ばれる)です。尚、台湾の日本統治時代、沖縄出身の照屋宏氏とたくさんの沖縄の人が台湾の鉄路を作っていました。この台湾特集を読むと、沖縄と台湾の関係にもっと親しみを感じます。



あと一つびっくりしたのは、東洋は「はじめての象棋」を出版しています。「象棋」は中国に生まれ、台湾で結構人気があるゲームです。実は私も高校時代が「象棋部」の一人です、特に「成功盃」という大会で「個人全勝賞」を受けたこともあります(詳しくは<http://0rz.tw/7yJex>)。まさか沖縄も象棋をやっているのとは、本当に知らなかったことです。

研修の毎日が充実して忙しいですが、遊ぶこともあります。今は会社の近くの糸満市に住んでいるので、たまに休日を利用して散策しました。例えば先日は「琉球ガラス村」に行きまして、ガラスの制作、綺麗な琉球ガラスを見ました。

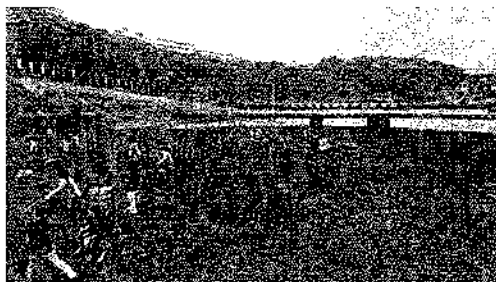


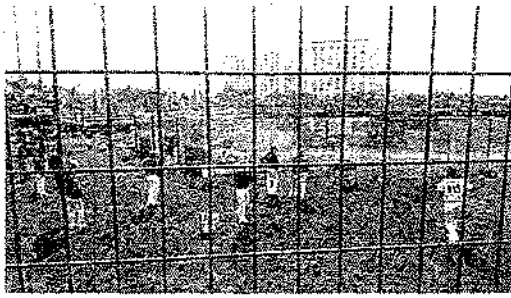
尚、社員旅行として、私と会社の皆さんが台湾に二泊三日で旅行しました。旅行とはいえ、台湾は私のふるさとなので、旅行中いつも台湾のことを社員の皆に紹介しました。皆も台湾の一〇一観覧、天燈体験、夜市散策などを楽しみました。お互い沖縄と台湾の絆を作れて、私も嬉しかったです。



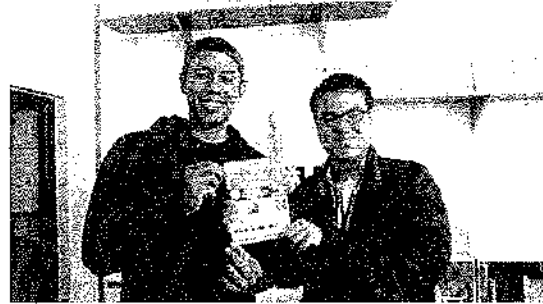
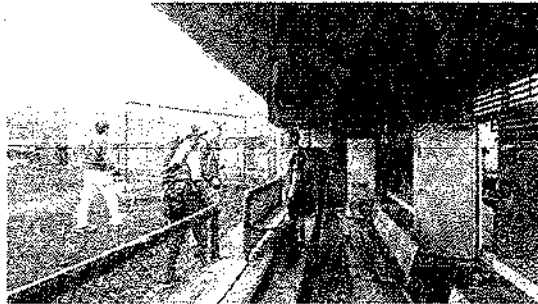
新年に入ると、会社の忘年会と新年会も体験しました。台湾も忘年会と新年会がありますが、旧暦を使っていますから殆ど一月の末から二月の間に行われます。そして御餅作らないとか、内容も違うので楽しかったです。

そして、沖縄の二月といえば、プロ野球キャンプです。球場に行けば無料で選手たちの練習と試合を見ることができますので、私は自分で北谷(中日)、宜野座(阪神)、宜野湾(ベイスターズ)、浦添(ヤクルト)、那覇に見に行きました。各球場でも多くのファンが集まっています、これこそ「キャンプ経済効果」と考えますね。





しかも、一ついいことがありました。今回の「モモト」雑誌は「野球王国沖縄」テーマで作りたいので、私は編集長のいのうえちずさんと一緒に沖縄選手をインタビューしました。取材のため、一般の観客よりもっと近くに選手を見ました。私にとって、そんなに近くで日本のプロ選手を観察するのは初めてです。



## 感想

短い一年ですが、いろいろなことを体験しまして、沖縄の人や留学生たちと友たちになりまして、本当に貴重な経験と思います。この経験をもったいないものにしたくない、今はこの一年のことを本に書き、“私の目線からの沖縄”という形で出版したいと思います。そのほかにも、わたしができる形で、もっと沖縄と台湾を繋げたい、仲良くなりたいです。これからも頑張ります。

## 島に戻って

志良堂 ミシェル サリタ サユリ（ブラジル）

伝統芸能習得コース 三線製作

私は日系4世ブラジルカンポグランデ出身の志良堂ミシェールスサリタサユリです。2015年に本部町の研修生として初めて沖縄に来ました。その時にカナダから来た県費留学生と会いました。彼は三線作りを勉強しに来ていました。彼を通して、私は三線作りを習うことができることを知りました。そして、ブラジルに帰って、一生懸命日本語を勉強して、今回はウチナーンチュ子弟等留学生受入事業で三線作りを学びに来ました。

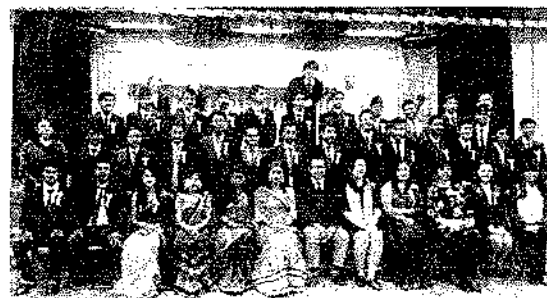


私が三線を作りたいと思ったきっかけは、10歳の時に手作りの三線をくれたオジーです。オジーが作ってくれた三線で、三線を弾き始め、歌を通して沖縄の文化にふれました。オジーは歌三線で学んだことを私たち孫にも教えてくれました。また、三線作りもしていたオジーは言葉にできないことを私にたくさん教えてくれました。

その目に見えない教えを受け継いで、私は彼と同じように三線を作りたいと思い、ウチナーンチュ子弟等留学事業を通して沖縄へ来ました。そして、那覇市内にある沖縄県三線製作事協同組合の岸本尚登先生は私に三線の作り方を教えてくれました。

### 日本語学校（SAELU 学院）

1年間の最初の3カ月 SAELU 学院で日本語を勉強しました。先生たちは日本語を教えただけでなく、生活の問題も助けてくれました。時間があつた時、皆といてもブラジルのことを話していました。先生たちのおかげでもっと日本語を話すことができました。ブラジルに帰ってからまた日本語を勉強し続けたいです。私は SAELU 学院の皆さんに本当に感謝しています。



### 三線作り (尚工房)

9カ月前那覇市松川の尚工房で三線作りを研修しました。この数が月間、岸本尚登先生に師事して、一から三線の作り方を学びました。

最初に、先生は昔の作り方を教えてくれました。ソー(棹)から始まりました。このソーは沖縄の黒木で作りました。最初の三線は全部手で作ったから大変でした。私の手はまだ柔らかかったので、とてもいたかったですけどこの三線を作り終えて、とても嬉しかったです。

三線と言えば色々な形があるけど、ブラジルでは二つ以上の形を見ていません。それを先生に話して、先生は7本ある形の中で、5本の形を教えてくれました。その一つの形で二本ずつを作りました。



1 真壁型 (沖縄の黒木)



2 久葉ぬ骨型 (桑木)



3 知念大工型 (黒木)



4 江戸与那型 (パルハート)



5 久場春殿型 (鉄木・テツボク)

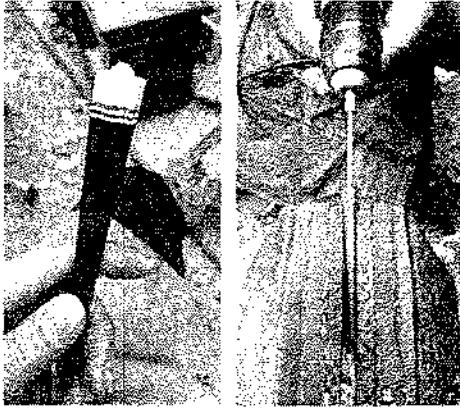
ブラジルのいい材料を探すために色々な材料で作りました。伝統的な三線の形だけでなく新しいデザインも習いました。六線や胡弓やギターのデザインの三線も作りました。ソーは20本ぐらい作りました。最初、私は何も分かりませんでした。例えば作業工具の名前とか機械の使い方を岸本先生は全部教えてくれました。機械を初めて使った時、怖かったですけど、ゆっくりと習っていきました。

次に皮張りをやりました。皮張りと言えば二つのやり方があります。

一つはクサビバリと言う昔のやり方です。岸本先生はこのやり方を見せてくれました。他には皮を張る時にジャッキを使います、それはジャッキバリと言います。岸本先生の



工房で蛇皮と人工皮をジャッキバリでやりました。一回照屋先生の工房に行つて、先生はクサビバリを教えてくれました。

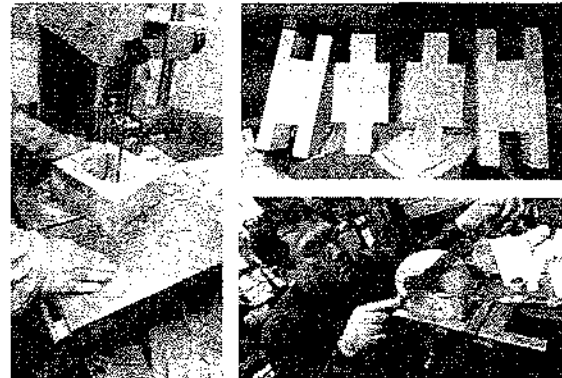


そして、カラクイ(糸巻)の作り方を習いました。ソーよりカラクイ(糸巻)を作ることが難しかったです。

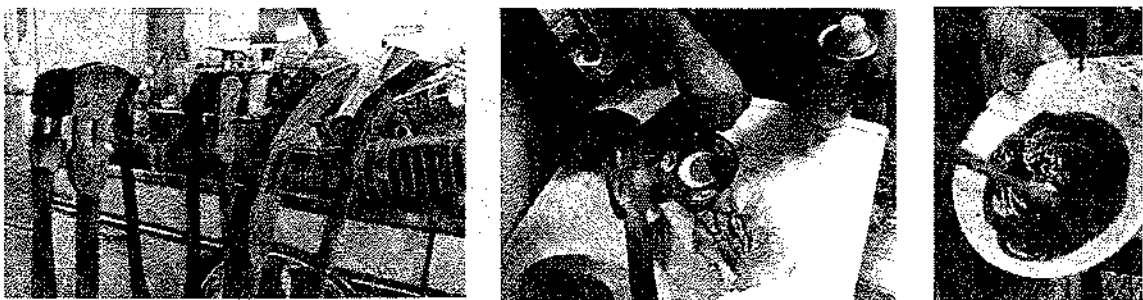
カラクイは小さいから作る時は指がとてもいたかったです。それもセットを作る時間がソーと一緒にした。ブラジルのことを思い出すようにカラクイにブラジルの旗の色を入れました。緑色や黄色や青色や白い色のプラス

チックでサンドイッチをしてカラクイにつけました。

岸本先生はチーガ(胴)の作り方も見せてくれました。このやり方は一番簡単だったと思うけど、まだ難しかったです。チーガ(胴)の形があります。これも勉強したかったですが、時間が短かったです。また沖縄に来たらチーガの作り方を勉強をしたいです。



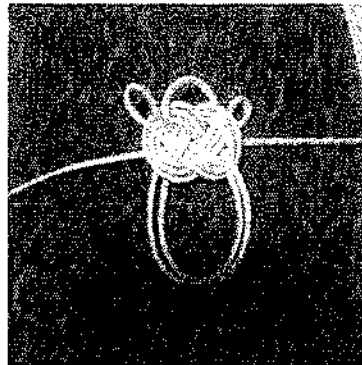
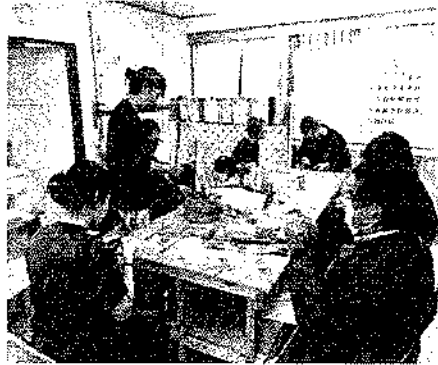
自分の作った三線で塗りの練習をしました。先生は塗りのやり方を三つ教えてくれました、漆塗りとスンチーと黒塗りです。最初にキッチンペーパーで塗り、後は全部ブラシで塗りました。ソーを塗りをして、後で磨きます。それを4回、5回して、最後の塗りをしました。



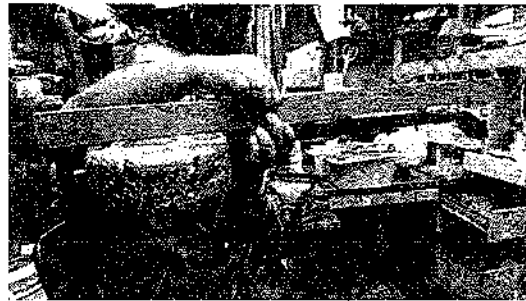
休みの時に米良さんの家に行って、ティーガの作り方を教えてもらいました。米良さんは大阪市から沖縄県にすんで、三線組合の事務所で働いています。ティーガは最初から最後まで全部手で作りました。縫うのが難しかったから、ゆっくりで毎日ちょっとずつやっていました。



組合の先生たちと一緒に事務所に集まって、糸掛の作り方を習いに行きました。先生たちと一緒にやって本当に楽しかったです。いつも先生たちが集まる時は、私は新しいことを学ぶことができました。



最後に三線の組み立ても教えてもらいました。先にウトウガニ(歌口)を作って、次にソーとチーガを直して、糸を糸掛けに掛けて、糸をカラクイに巻き込んで、チンダミをします。



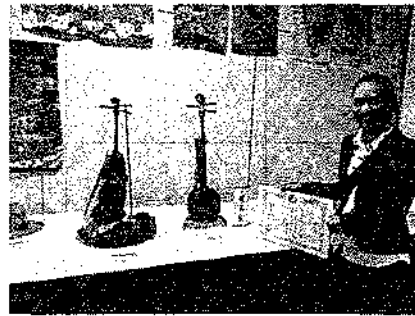
先生は三線作り以外に修理も教えてくれました。ブラジルに帰ったら三線作りだけでなく修理もすることができると思います。



先生の家族も、オバーとオジー、毎日一緒にご飯を食べて、うちな一ぐちを教えてください、本当に感謝しています。

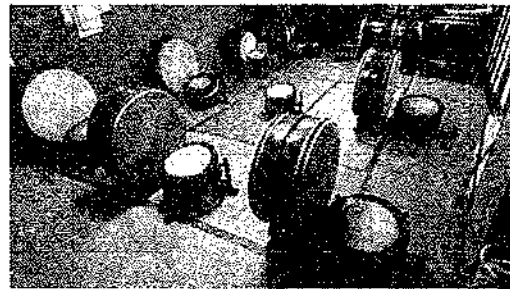
オバーとオジーは戦争のこととか昔のこととか色々な話をしてくれて、二人のおかげでもっと日本語を習うことができました。先生の家族が私の家族になりました。オバーとオジーのマガーグワーになりました。助けてくれていっぺーにふえーでーびる

11月第40回沖縄伝統工芸公募展に応募し、新人賞を受賞いたしました。この新人賞は、私に自信をくれるとともに、これからの三線作りの目標にも繋がりました。



### 光文太鼓の稽古

7月から比嘉聡先生の光太鼓の会で稽古を始めました。毎週火曜日に練習がありました。比嘉先生はとても素晴らしい先生です。カンポグランデに太鼓の先生がいないので、ここでちょっと勉強したいと思って、比嘉先生と話して、すぐ練習を始めました。先輩たちもいつも優しくかったです。先生がいなかった時は、皆さんが教えてくださいました。本当に感謝しています。



### 胡弓の稽古

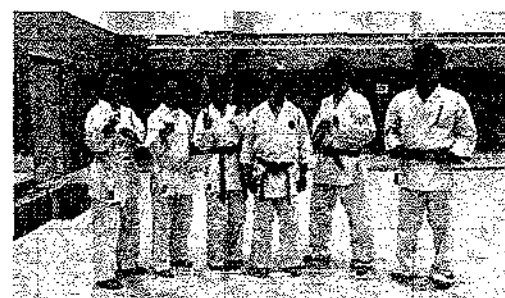
12月から市成洋子先生の所で胡弓の稽古を始めました。毎週金曜日に練習がありました。カンポグランデでは誰も胡弓を弾かないから、自分で作った胡弓で練習をしてブラジルでも弾くことができると思います。皆さんはとても明るくて、私たちは本当に家族みたい。皆に心からありがとうございます。



いっぱい勉強して、他のもの作りも習うことができ、とてもうれしかったです。くるちの杜100年プロジェクトやWUSS - World Uchinanchu Student Summit



や三線組合の勉強会と三線大学やビーチや公園のクリーニングなど色々なイベントにも参加しました。後は琴の調弦とかびんがたの見学もしました。松川公民館の三線サークルと空手の彫刻に参加しました。大先生たちの三線鑑定会も見に行きました。



沖縄で学んだことをブラジルでも続けたいです。色々なことを習いましたけど、一番大切なことは「大変なことがあるけど、いつもチバリヨー」。皆さん、いっぺーにへーでーびたん。

## 太鼓バカの大冒険

前外間 レオネル（アルゼンチン）

伝統芸能習得コース 太鼓製作

### プロローグ

ハイサイ！僕は前外間レオネル、アルゼンチン人、二世、30才。

14才ころから琉球國祭り太鼓アルゼンチン支部のメンバーです。僕が入部した時は20人ぐらいでした、今は80人以上です！アルゼンチン支部は1998年に作った、来年20周年記念公演をやります。皆、太鼓を持つために太鼓の作り方を学びたいと思った。

### 日本語思い出して

始まりの三ヶ月は日本語学校「SAELU学院」で勉強しました。学校は9時から13時まで、それで昼から時間がありました。何時間かはもちろん、勉強の時間でした、でも時々散歩しました。七月の日本語能力試験のN3に合格できました。



SAELU学院の最後の日

### 新崎太鼓三味線店

7月1日、沖縄市に引っ越ししました。七月から新崎太鼓三味線店で働き始めました。最初の2週間はそうじだけ、たとえば、外を箒で掃く、太鼓を拭く。屋良さんは僕に太鼓作りを教えている人で、屋良さんのお母さん、ひろこさんはお店でお客さんへのサービスをします。屋良さんのおじいさん、新垣さんは三線を作ります。

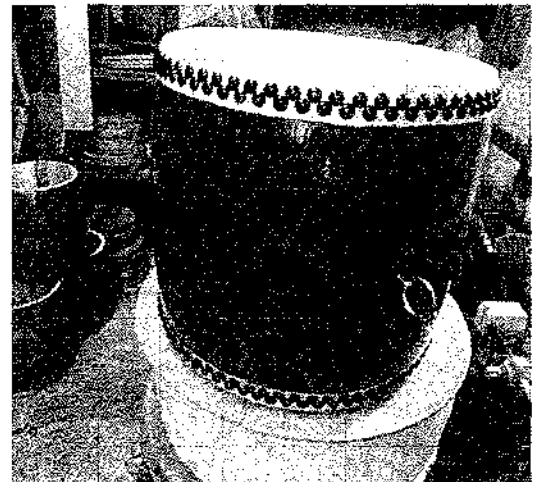
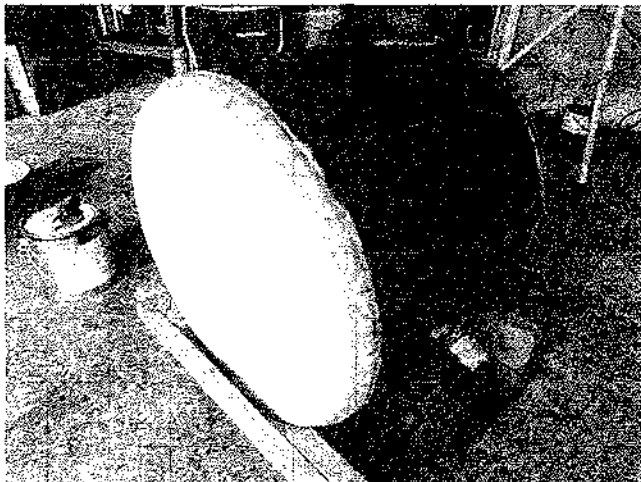
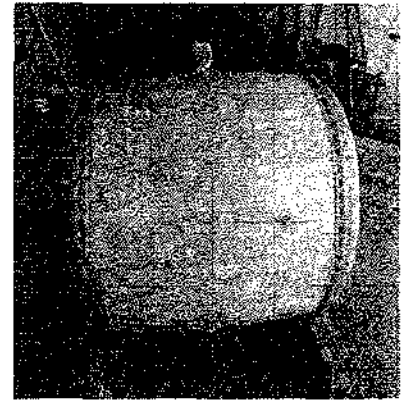
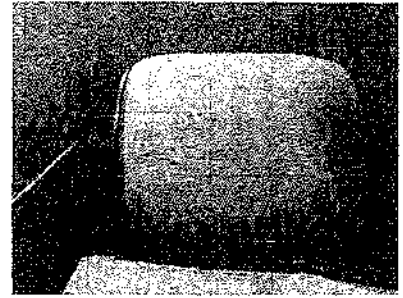
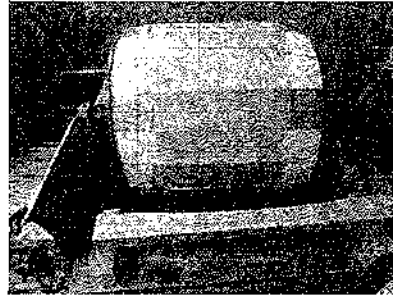
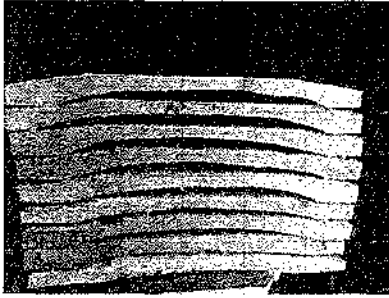
ついに太鼓の作り方がはじまった。まず、木を切る、そして17本～21本の本で太鼓1コを作ります。17本は小さい太鼓と締め太鼓、19本は大太鼓、21本は大きい平太鼓を作ります。木をそれぞれ形にして、全部をボンドでつけます。ボンドが固まるには1日かかります。後は機械を使って太鼓の形にします。

木のことが終わったら、太鼓にシーラーを塗ります。4～5回ぐらい。次は赤いペイント、これも4～5回ぐらい塗ります。穴を開けて金具を掛けます。

革を張るのは一番難しい、引っ張り過ぎたら革が切れる。あまり引っ張らないのは音が出ません。革は一枚張るのに二日かかります。

パーランクーはちょっと違う、パーランクーのボディーはベニアという木を使う。革の張り方は同じです。

締め太鼓は全然違う。革は金具を掛けて、手で縫います。後はペイント、絵を描く、クリアーペイントを塗ります。



### 新崎太鼓三味線店は三味線店ですね

三線のこととも学びました。最初はカラクリを作りました。カラクリは木と骨で作ります。難しくないけど、細かいことが多かったです。

次に習ったことは革の張り方、人工革と本革。太鼓の革の張り方と全然違う、蛇の革は壊れやすい。つぎにさおの作り方を覚えました。これは一番難しいことでした。僕は三線のこととは良く分からない、三線は少し弾けるけど、三線の形については良く分からない。

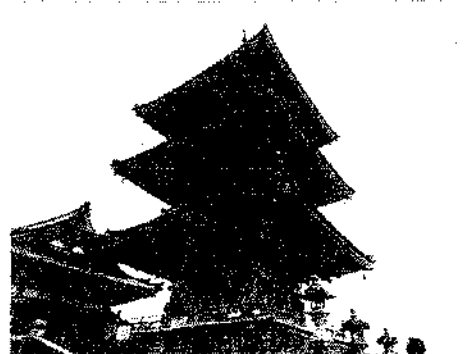
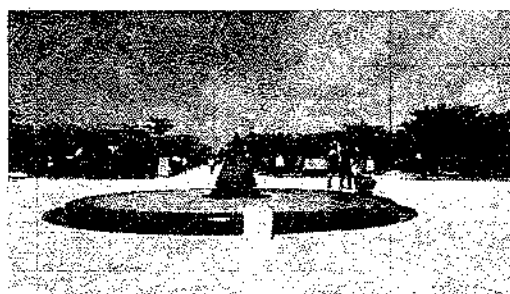


### 沖縄県留学だよ！

この1年間色んなことをしました。留学生たちと沖縄のことを学びました。

慰霊の日、平和祈念公園に行きました、そこで戦争のことを学びました。沖縄県立博物館で歴史のことを聞きました。伊江島で研修しました。那覇市の国際通りを散歩しました、琉球漆器を作りました。

京都で県外研修をしました。日本の歴史を学び、たくさん歩きました。僕は初めての京都でした。前に写真で見たことはあるけど、自分の目で見るのは全然違いました。



7月に南米から研修生が来ました。この研修生たちの中には琉球國祭り太鼓の友人もいます。浦添市、ウチナージュニアースタディー、北中城村、読谷町、名護市、今年祭り太鼓のメンバーは研修生になった人がいっぱい！

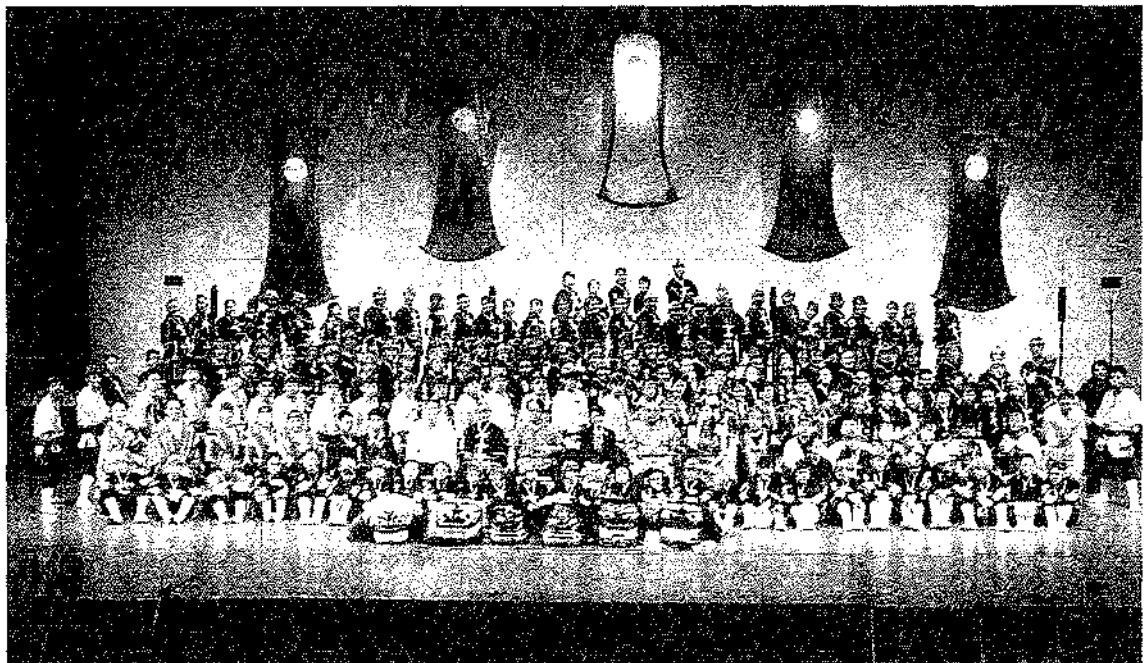
### うまんちゅひろば

8月16日「うまんちゅひろば」という番組の撮影でした。朝は新崎太鼓のお店と工場でインタビューと撮影しました。夜は琉球國祭り太鼓の練習の撮影ともう一回インタビューしました。あれは大変でした！すごく暑かったです！その前は2回踊りました、とても疲れた！



### イーヤーササ！

琉球國祭り太鼓と練習して色々なイベントに参加しました。全島エイサーに出ることは僕の夢でした。何回も全島エイサーのビデオを見ました。コザ運動公園で踊るはとっても嬉しい！11月4日は琉球國祭り太鼓35周年記念公演でした。このイベントは沖縄本島のメンバーだけ出ました、でも僕は四月から沖縄に住んでいていつも練習に行ったので僕もイベントに出ました。



## 家族が一番

この留学のおかげで家族とで会うことができました。留学生になって本当に良かった！



シーミー



オバーの誕生日



お墓を掃除しました。

## 未来へ

アルゼンチンに帰った後は何をしたいと思いますか？

最近これ良く聞かれます。一番はもちろん、アルゼンチンで太鼓をやることです。来年は琉球國祭り太鼓アルゼンチン支部の20周年記念公演があります。そのイベントで僕の太鼓を使ったら、とっても嬉しいです。

アルゼンチン沖留会（沖縄留学生会）を手伝います。沖縄の留学（県と市町村）を広めます。

エイサーで沖縄の文化を広めます。沖縄本部で学んだことをアルゼンチン支部で教えます。

出来れば、もっと日本語の勉強をして、JLPTのN2を受けます。

この一年間とっても楽しかったです。ありがとうございました！

平成29年度 ウチナーンチュ子弟等留学生 修了報告書

沖縄県

発行年月：平成30年3月

受託者 公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

